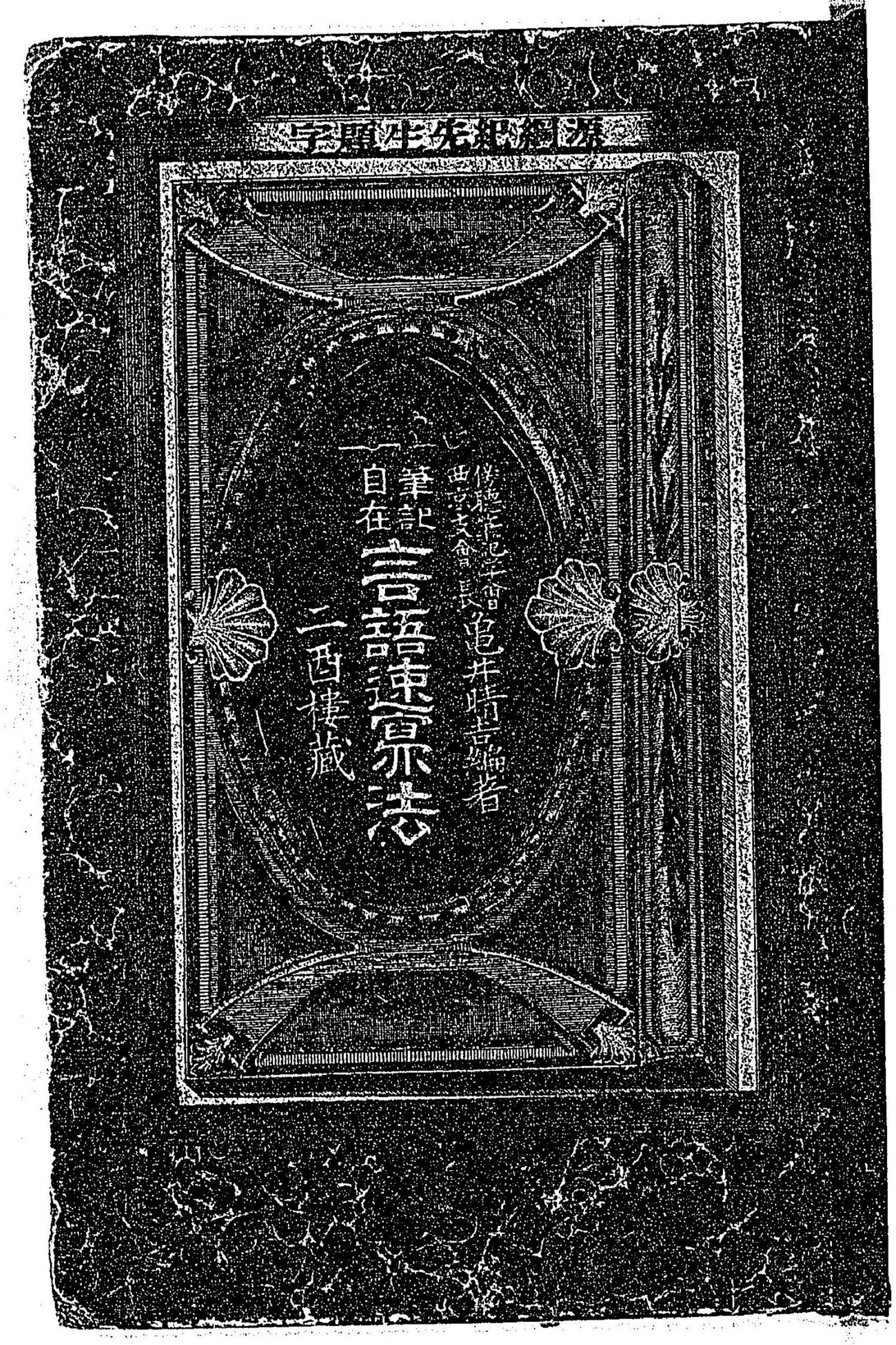


076690-000-5

特65-566

言語速写法

亀井　晴吉／著

M19.5

DAB-0042

源綱紀先生題字

自筆 高麗史

佐藤信淵著
亀井暘春編著
西園寺藏

4321

特65
566

প্রথম খণ্ড

প্রথম পর্ব

荒發

明治十九年
三月

源經紀

華記自在言語速寫法目次

第一章　總論
第二章　記號之源因
第三章　音聲之區別
第四章　綴字之種類
第五章　平音之綴方
第六章　長音之綴方
第七章　反音之綴方
第八章　詰音之綴方

目次畢

第九章　疊音之綴方
第十章　疊字之用方
第十一章　捨假名之略記
第十二章　綴方ニ付テノ規則
第十三章　記號連綴之例
附言　筆記者之心得

筆記自在　言語速寫法

日本傍聽筆記學會
西京支會長
亀井晴吉　編著

第一章　総論

第一条

言語速寫法ハ人ノ言語ヲ耳ニ聽クガ儘ニ一言半句モ洩サス速ニ寫シ取ルノ學術ナリ

其記號ハ音聲ニ基キテ定メタル者ナレバ其寫シ取リノ法ハ渾テ我國舊

來ノかなつかいニ憑ラサル者トス故ニ之ヲ學ブ者ハ如何ナル場合ニ於テモ俗語漢語國訛リ言葉癖抔耳ニ聽ユルマヽニ寫シ取ルベシ

其寫シ取リタル者ヲ普通ノ文字ニ反スニハ成ルベク言葉通リニ譯スベシ

長音ニハカウ、カフ、コウ、コフ或ハサウ、サフ、ソフ抔一ツノ音ニテ三ツモ四ツモ其書キ方ヲ異ニスル者アレ

ヒ是等ハ皆かなつかいの法ニ憑ラス濁音ノ儘ニ寫シ取ルベシ

結音ニハツトグトノ二ツノ音アレヒ是亦發音ノ儘ニ寫シ取ルベシ

捨假名ハ寫シ取ニ於テ大ニ手數ヲ省キ又譯文ノ時通常ノ言葉ト見分ケ安ラシメン爲ニ設ケタル者ナリ

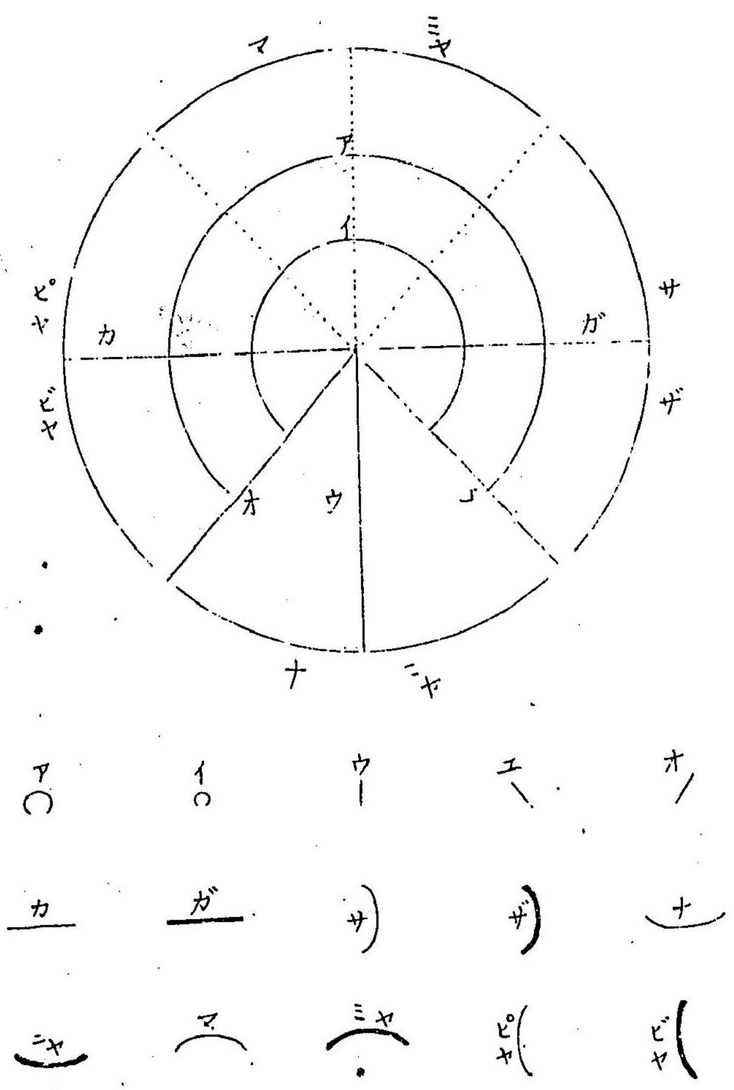
第二章　記號之源因

第二条　言語速寫法ノ文字即チ記號ノ源因ハ圓形ノ者ヨリ起ル又記號ノ形ヲ大別

第一 單記號

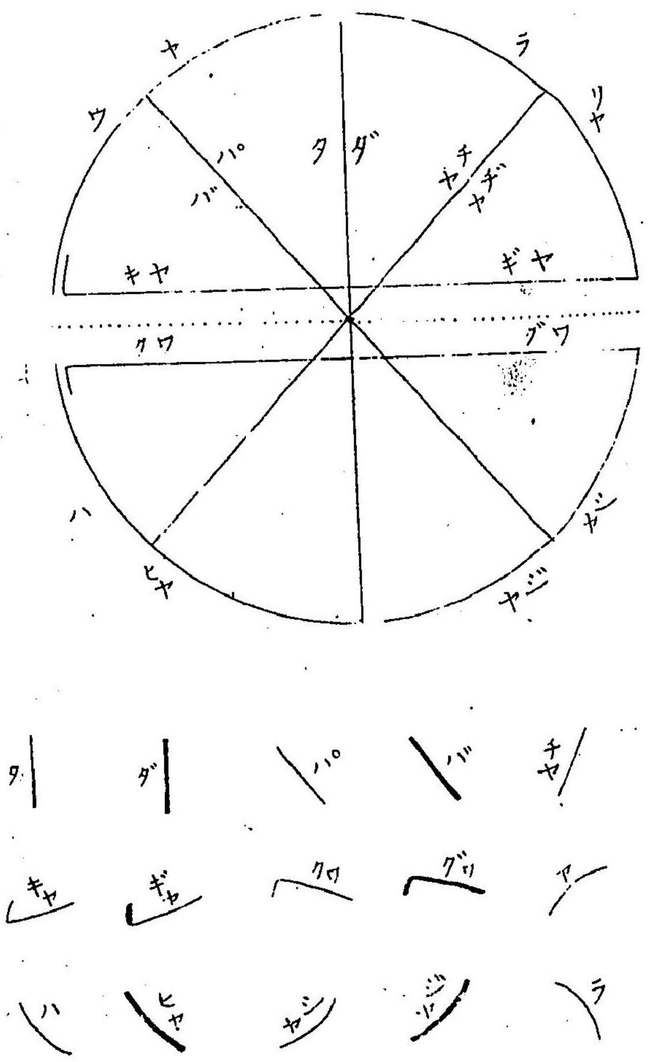
シテ單記號複記號ノ二種トナス

單記號　曲線直線斜線ノ單一ナル畫ヨリ成リ立チタル記号ヲ云フ其数三十三アリ次ニ其形ヲ示ス



第一 形之因源號記單

第二 單記號源因之形



第二 複記號

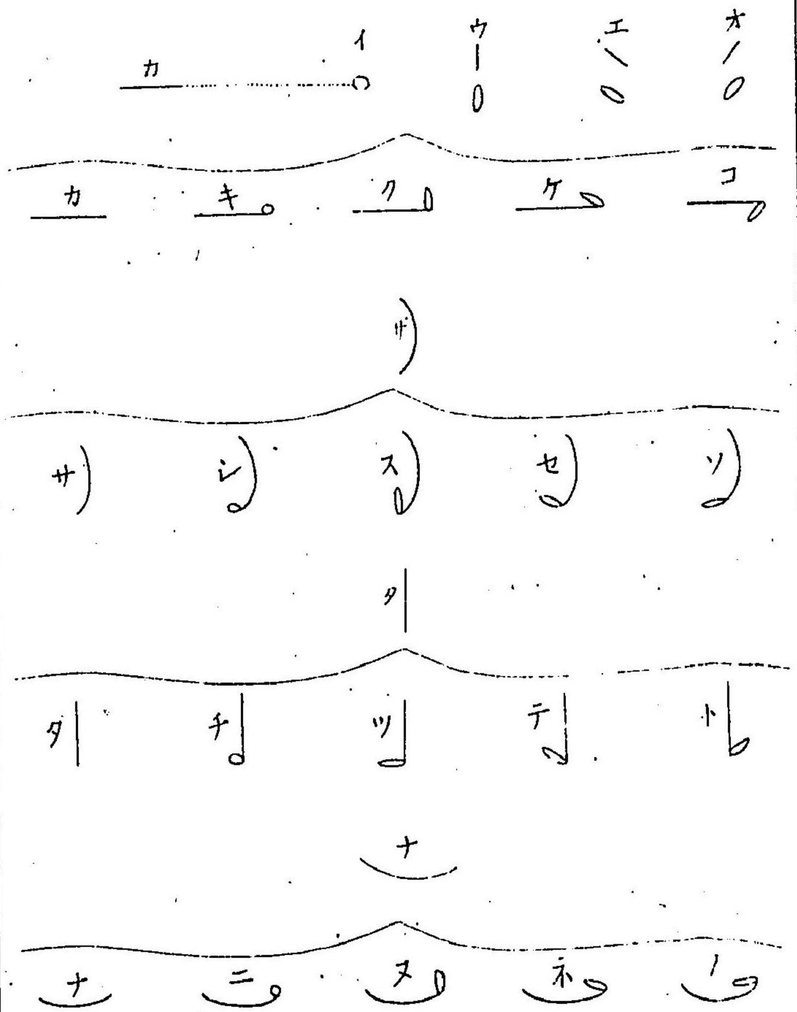
單記號ノイ。ウーエヽオノト他ノ各ノ線ト結ビ合セタル記号ヲ云フ其數百十二字アリ茲ニ單記号ノ互ニ結ビ合テ複記號ヲナスノ一例ヲ示サンニ例ヘバカ。キ。ク。ケ。コノ行ナレバカニイ。ヲ合スレバキトナリウーヲ合スレバクトナリエヽヲ合スレバコトナリオノヲ合スレバトナル其外ノ各行トモ皆此例ニ因リテ定メタル者ナリ然ル便宜ニ依リテ間々ウーエヽオノノ字ヲ變角ニ

結ビ合ゼタル文字アリソツノノメレキヨ
クエショチヨノ等ノ文字是ナリ又クケユ或ハ
スセソハクコ或ハスセソト書クベ
キ道理ナルニクケコ或ハスセソト其
結ビ合セタルウエオノヲ再ビ其結ビ合
セノ所マテ内ヘ引キ返シアルハ記號
綴リ方ノ便宜ニ憑レル者ナリ

第三条

次ニ單記号ノ互ニ相合シテ複記号ヲ
ナスノ例及ビ総テノ記號ヲ示ス記号
ノ数ハ一百四十五字アリ

例シテ
合ス
相ヲ
號記
單
複記



言語速筒法記號表

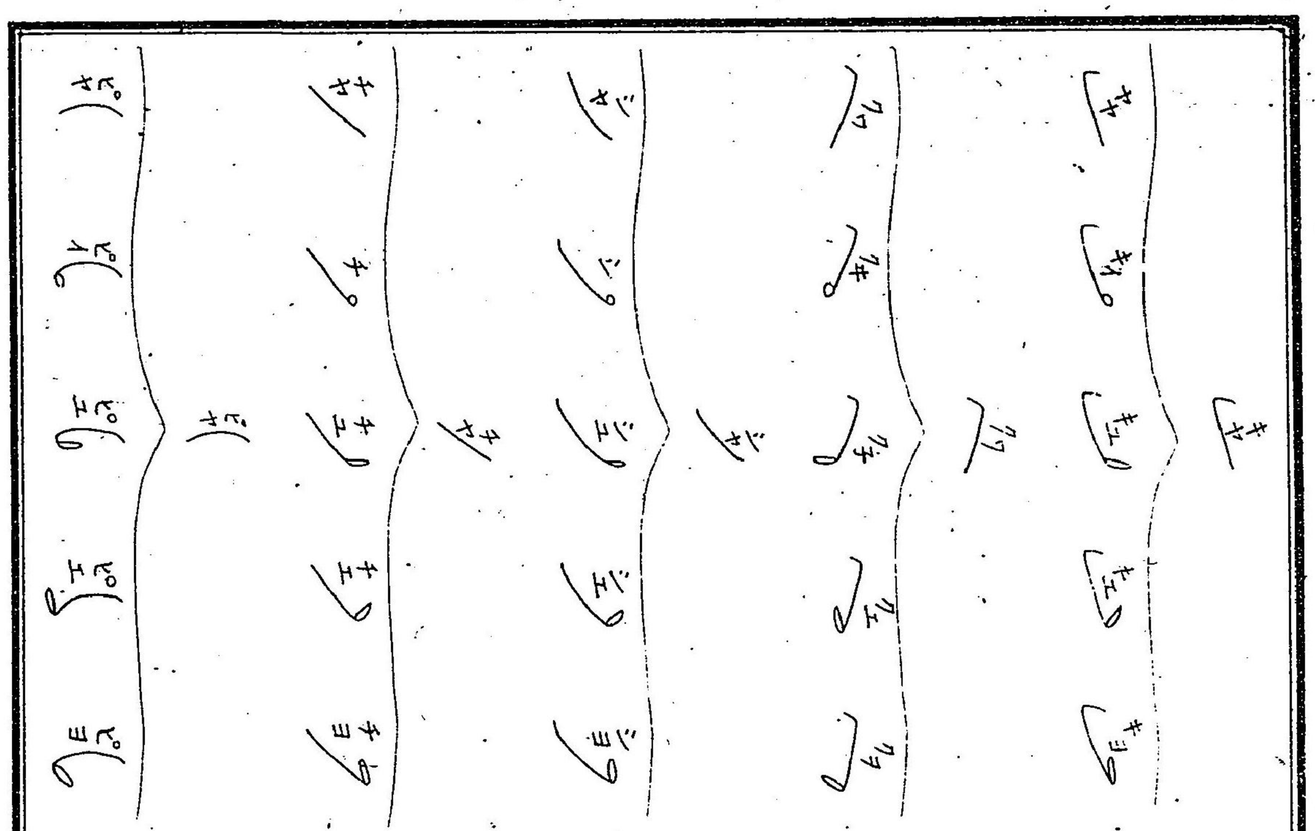
單音

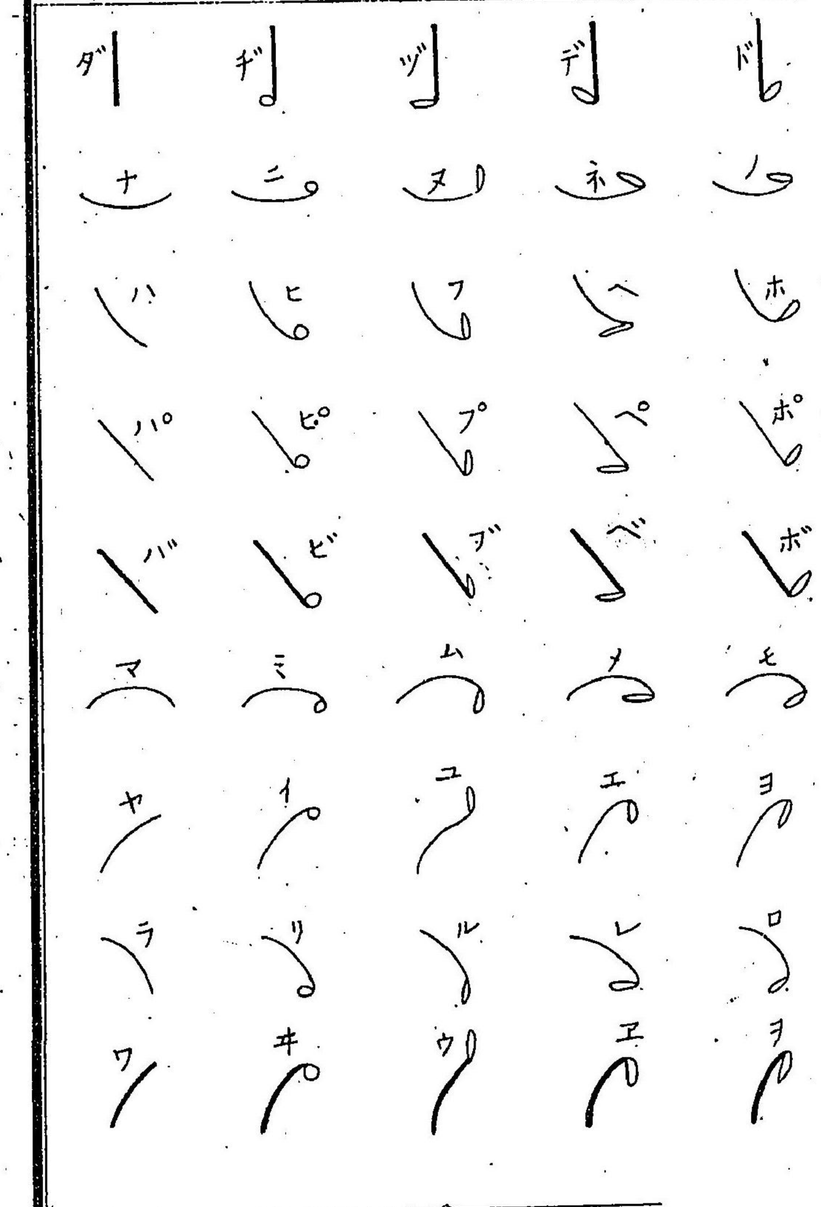
母音

ア	オ
イ	エ
ウ	ヰ

子音

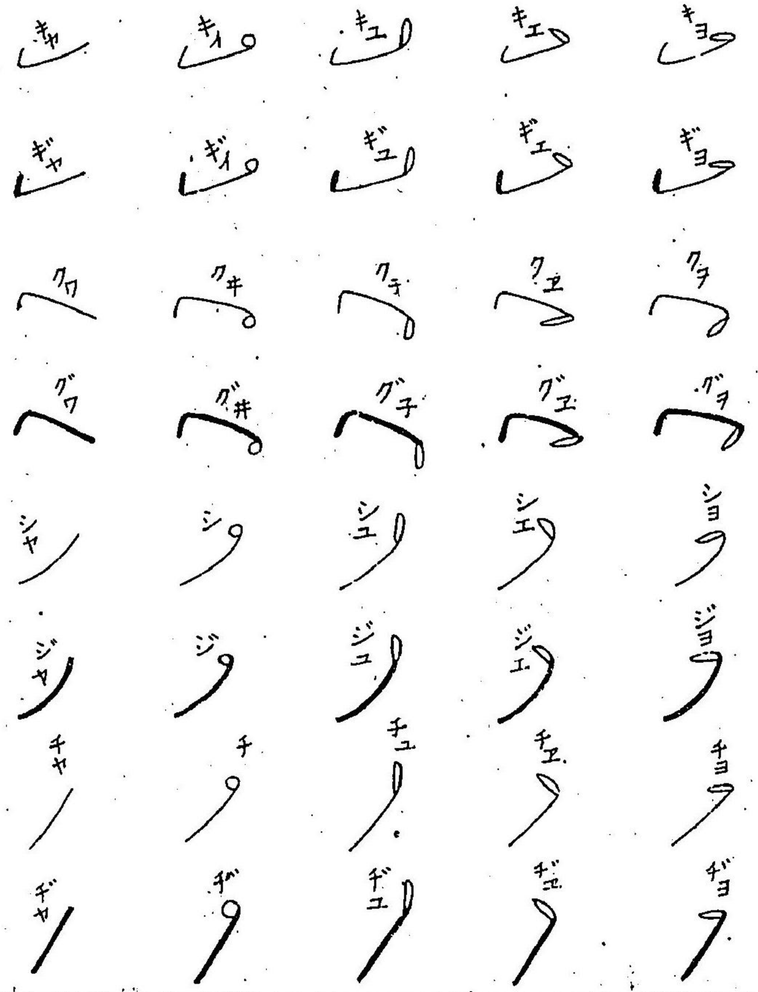
カ	キ	ク	ケ	コ
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
サ	シ	ス	セ	ソ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
タ	チ	ツ	テ	ト

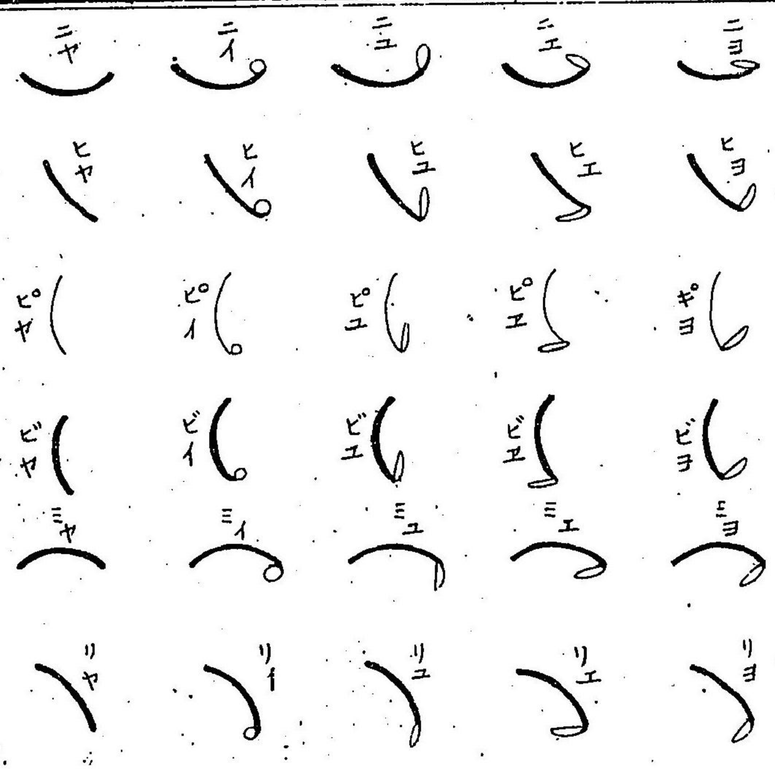



ダ ヂ ヅ デ ド
ナ ニ ヌ ネ ノ
ハ ヒ フ ヘ ホ
パ ピ プ ペ ポ
バ ビ ブ ベ ボ
マ ミ ム メ モ
ヤ イ ユ エ ヨ
ラ リ ル レ ロ
ワ ヰ ウ ヱ ヲ

複音

子音


キャ キィ キュ キェ キョ
ギャ ギィ ギュ ギェ ギョ
クワ クキ クチ クエ クヲ
グワ グキ グチ グエ グヲ
シャ シ シュ シェ ショ
ジャ ジ ジュ ジェ ジョ
チャ チ チュ チェ チョ
ヂャ ヂ ヂュ ヂェ ヂョ



壹體

第四条　壹体ラリルノ三字ハ綴字上ノ便宜ニ依リテ定メタル者ナレバ通常ノ〳〵ト孰ヲ用ユルモ妨ゲナシトス然シテヤ行チ行ノ文字ト紛ラシケレヒヤ行チヤ行ノ文字ハ四十五度ラリルハ六十度ノ角度ナレバ宜シク誤ラザル様注意スベシ

ノ二字ハ壹体ノ文字ナシ

第五条　記号中ニ同ジ形ニシテ濃キ淡キアルハ其音ノ清音ト濁音ト拗音トヲ分別

シタルモノナリ故ニ清音ハ其形ノ淡キモノニシテ濁音拗音ハ其形ノ濃キ者ナリガ濁ハカ清ノ濁ハサ清ノ拗ニャ清ハナ清ノ拗ミャ清マ清ノ孰モ濃キ者等ナリ又拗音中ニ於テモ其形ニ濃淡ノ別アリ即チキャノギャニ於ケルチャノヂャニ於ケルピャノビャニ於ケルガ如シ他ハ記号表ニ就テ熟知スベシ

第三章　音聲之區別

第六条　記号ノ發音ヲ大別シテ單音複音ノ二

種トナシ又母音子音トナス左ニ示スガ如シ

第一　單音　其音ノ單一ナルモノヲ云フ　ア。イ。ウ。エ。オ。ヨリワ。ヰ。ヲ。ヱ。ニ至ル七十五ノ文字是ナリ

第二　複音　其音ノ複リタル者ヲ云フ　キャ。キイ。キュ。キョ。ヨリリャ。リイ。リュ。リェ。リョ。ニ至ル七十ノ文字是ナリ

我國ノ假名ニテハ客ノキャ。會ノクワ。借ノシャ。勅ノチョ。表ノヒョ。病ノビョ。量ノリョ。等ハ孰

レモ二字ノ音ヲ複ネサルヲ得サレ𪜈
本法ニ於テハ（キャ）（クヮ）（シャ）（ショ）（ヒョ）（リョ）ト一字
ヲ以テ其音ヲ為スナリ即チ之ヲ複音
ト云フナリ

第三 母音 ア。イ。ウ。エ。オ。ノ五字ヲ云フ又母字
トモ云フ

第四 子音 カ。キ。ク。ケ。コ。ヨリ。リ。イリ。ユリ。エリ。リョ。二至
ル百四十字ヲ云フ又子字トモ云フ

第七条 單音複音ヲ小別シテ清音濁音半濁音
清拗音濁拗音半濁拗音ノ六種トナス

次ニ説キ示スガ如シ

第一 清音 五十字アリア。行 カ。行 サ。行
タ。行 ナ。行 パ。行 マ。行 ヤ。行 ラ。
行 ワ。行ノ十行是ナリ

第二 濁音 二十字アリガ。行 ザ。行 ダ行
バ。行ノ四行之ナリ

第三 半濁音 五字アリパ。行ノ一行是ナリ

第四 清拗音 四十字アリキャ行 クヮ行 シャ行
チャ行 ニャ行 ヒャ行 ミャ行 リャ行ノ八
行是ナリ

第五

濁拗音　二十五字アリギャ行　グヴ行　ジャ行　ヂャ行　ビャ行ノ五行是ナリ

第六

半濁拗音　五字アリピャ行ノ一行是ナリ

第四章　綴字之種類

第八条　記号ノ綴リ方ニ平音長音反音詰音畳音ノ五種ノ別アリ而メ先ツ平音ノ綴リ方ヨリ始ム総テ記号ヲ綴ルニハ其角度ヲ誤ラヌ様又成ルベク横ニ真直ニ書キ行ヲ乱サヌ様注意スベシ初学ノ間ハ曲尺二分位ノ碁盤罫ニ習字スルヲ善トス

第五章　平音之綴方

第九条　平音ノ綴方トハ其音壱ノ平カナル者ヲ綴ル法ナリ記号ヲ綴ルトハ最初ノ字ノ尾ニ次ノ字ヲ順次ニ結ビ付ケルヿナリ今其一例ヲ示サン〻ニ人ト云フ字ヲ綴ルニハヒトと結ビ付テト書キ小供トモト云フヲ綴ルニハコドもト書クガ如シノ三字ヲ結ビ付テコトと書クガ如シ

第十条　次ニ平音綴方ノ例ヲ示ス

第一 平音綴方之例

花 雪 月 人 神

袴 葷 鶉 纏 錨

菌 傘 鶯 薑

第二 平音綴方之例

許多 賦課 社會 外務 最初

和局 謝辭 墨守 退去 識者

恥辱 着手 戮力 勅書 勅裁

媒妁 徘徊 輩出 努力 都會

第六章　長音之綴方

第十一条　長音ノ綴方トハ長キ音ヲ綴ル法ナリ通常ノ記号ヲ長音トナスニハ（ー）長音標ヲ用ユル者ト　ア○ノ母字ヲ加フル者ト　其字ノ一畫ヲ加フル者ト　其字ノ母字ヲ長ク延バス者トノ四ツノ法アリ次ニ説キ示スガ如シ

（ー）長音標ヲ用ユル者ハ　ア○　イ○　ウ○ノ三字及イ。経ノ文字皆是ナリ即ア○ー　イ○ー　ウ○ー　キ○ー　リ○ー　チ○ー等ノ如ク其字ノ上或ハ左右ニ（ー）ヲ

第二

付記スベシ又他ノ記号ニテモ長音トスルヿヲ忘レタル片亦（ー）ヲ付記シテ長音トナスヿ前ニ同シ

ア○ノ母字ヲ加フル者ハア経ノ文字即チ単記号ノ儘ノ者ノミニ此法ヲ行フヿヲ得ルナリ例ヘバカー　サー　ター　ナー　キャー　クワー　チャー等ノ如シア。イ。ニ経ノ文字ハ吾國ニ於テハ長音ナケレ𪜈外国ノ音ニハ多クアルモノト知ルベシ

第三

一畫ヲ加フル者ハ母字エ。オ。ノ二字ニ限

ル即チエ〈ニ一畫ヲ加ヘテ〈ノニ一畫ヲ加ヘテイト書クナリ

第四

第十二条

母字ヲ長ク延バス者ハウ經エ經オ經ノ文字悉皆此法ヲ用ユルヲ定規トス例ヘバクケコヲ スセソヲ ツテトレ等ノ如シ其他ハ皆此例ニ異ナルヿナシ記号ハ音色ニ基キテ定メタル者ナレバ耳ニ聽ユルマヽニ寫シ取ルベキハ勿論ナリトス故ニ長音ノ如キハ特ニ舊来ノかなつかひニ依ラズシテ寫シ取ルベシ故ニ我國ノ長音ニハ(カウ、カフ、コウ、コフ)(タフ、タウ、トフ、トウ)(チヨウ、テウ)(チユウ、チウ)抔ト一ノ音ニテ三ツモ四ツモ書キ方ヲ異ニスレ𪜈皆発音ノ儘ニ(イヨー)(チユー)ト書クヲ一定ノ規則トス其他尚此例多キ故注意スベシ

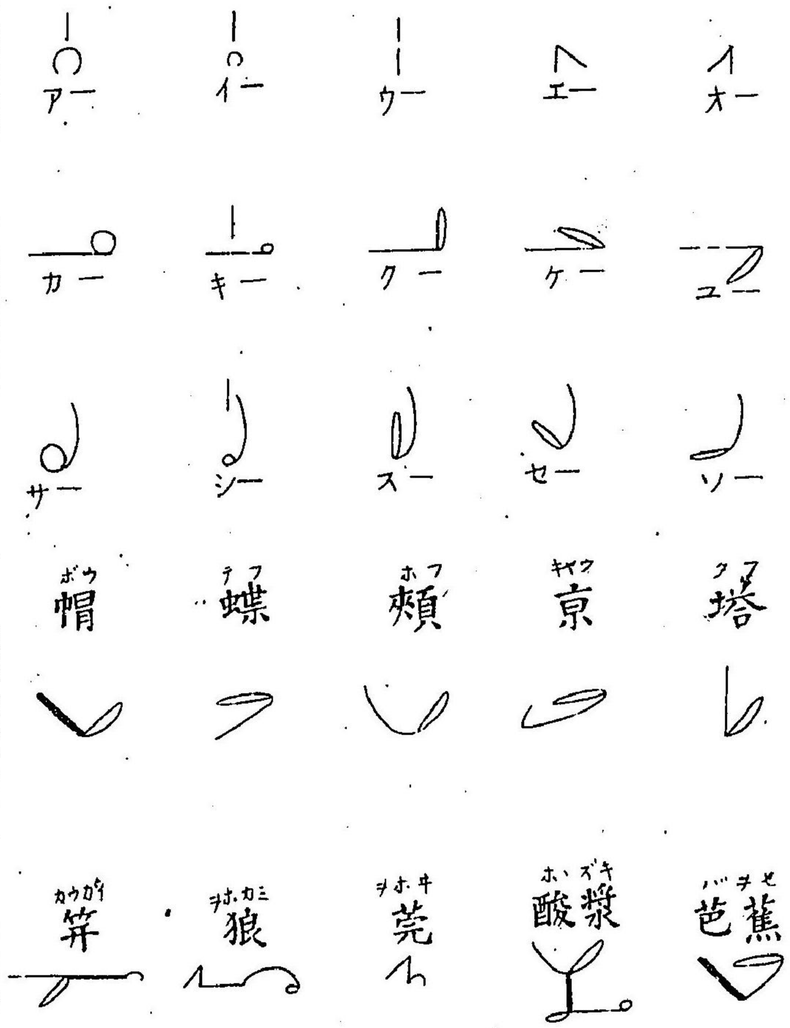
第十三条

エノ母音ノ後ニ付クイヲ長音ニスルヲ便トス例ヘバ警ヲ(ケイ)(セイ)帝ヲ(テイ)寧ヲ(ネイ)平ヲ(ヘイ)ト書クガ如シ

第十四条

次ニ長音ノ綴方ノ例ヲ示ス

第一　長音綴方之例



第二　音綴方之例

第七章　反音之綴方

第十五条　反音ノ綴方トハ反テ呼ブ音ヲ綴ル法ナリ是ハ(ン)反音標ヲ字尾ニ結ビ付ケルヲ定規トス例ヘバ民権官員等ハ反音ナル故ニ〜ト〜及ビ〜ト〜ノ各ノ字尾ニ(ン)反音標ヲ連ネ記シテ〜及〜ト書クガ如シ若シ(ン)ヲ誤脱シタルトキハ其傍ニ(ン)ヲ付記シ置クベシ今晩〜因循〜等ノ如シ

第十六条　次ニ反音ノ綴方ノ例ヲ示ス

第一　反音綴方之例

オン	エン	ウン	イン	アン
コン	ケン	クン	キン	カン
ワン	セン	スン	シン	サン
蓮根 レンコン	人参 ニンジン	柑蜜 ミカン	林檎 リンゴ	槐 エンジュ
提灯 チヤウチン	簞笥 タンス	茶碗 チヤワン	膳 ゼン	土瓶 ドビン

第二　反音綴方之例

蜻蛉（トンボウ）	頭巾（ヅキン）	襦袢（チユバン）	寒暖計（カンダンケイ）	箕盤（ソロバン）
万物（バンブツ）	天地（テンチ）	金魚（キンギヨ）	水仙（スイセン）	南天（ナンテン）
学問（ガクモン）	運動（ウンドウ）	午前（ゴゼン）	文字（モンジ）	善道（ゼンドウ）
親展（シンテン）	堅固（ケンゴ）	忍耐（ニンタイ）	勉強（ベンキヤウ）	健康（ケンコウ）

第十七条

第八章　語音之綴方

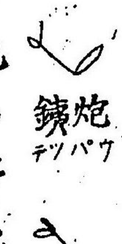
詰音（キツオン）ノ綴方トハ結メテ呼ブ音ヲ綴ル法ナリ通常ノ記号ヲ詰音トナスニハ字尾ヲ結ブ者ト半畫ニ書ク者ト詰音トナルベキ字ニ次ノ字ヲ重ネ書ク者ト ⊙詰音標ヲ付スル者トノ四ツノ法アリ今之ヲ次ニ順次ニ解キ示スベシ

第一

字尾ヲ結ブノ法ハ母音アイウエオノ五字ニ限ル即チ ㋐ツ ㋑ツ ㋒ツ ㋓ツ ㋔ツノ如シ

第二

半畫二書ク法ハアイウエオノ五字ヲ除クノ外皆此法ヲ行フヲ得ル例ヘバ


家カ

國コク

炮パウ

鐵テツ

杯パイ

別ベツ

地チ

実ジツ

儉ケン

節セツ

等ノ如シ其他ハ皆此例ニ同シ

第三

詰音トナルベキ字ニ次ノ字ヲ重ネ書ク法ハ記号中同角度ノ文字ヲ除クノ外皆此法ヲ用ユルヿヲ得ルナリ例ヘバ

倒トウ

定テイ

散サン

見ケン

夫フ

藤トウ

葛カツ

悉シツ

皆カイ

進シン

日ニツ

當トウ

別ベツ

扈コ

跋バツ

等ノ如シ其他ハ皆此例ニ同シ

第四

詰音標ヲ付スル法ハ記号中悉皆此法ヲ施スヿヲ得ルナリ例之バ

卓タクケン

見ケン

撿ケン

実ジツ

卒ソツ

土ド

立リツ

身シン

指シ

屈クツ

等ノ如シ其他ハ此例ニ依リテ推知スベシ

熱ドクシン

心シン

嬪ヒン

別ベツ

血ケツ

紇ツ

嗟サツ

吐ト

第十八条

詰音ハ我國ノ音ニテハツトクノニツノ書キ方アレトモ本法ハ發音ノ儘ニ書ク故ニツクノ字ハ全ク書キテ一定ニ書クヿ例ハ骨董

コツトウ

学校

ガクカウ

ノ如シ

第十九条

次ニ詰音ノ綴方ノ例ヲ示ス

詰音綴方之例

オツ　エツ　ウツ　イツ　アツ

腦胸（オツトセイ）　越格（エツカク）　鬱陶（ウツトウ）　一派（イツパ）　歷制（アツセイ）

或　或　或　或　或

物價（ブツカ）　月謝（ゲツシヤ）

發端（ホツタン）　華記（ヒツキ）

詰音綴方之例

沸騰（フツトウ），竊盜（セツトウ），鐵石（テツセキ），滑稽（コツケイ），目下（モツカ）

達筆（タツピツ）　出奔（シユツポン）　烈士（レツシ）　刻苦（コツク）　決心（ケツシン）

立錐（リツスイ）　匹夫（ヒツプ），日子（ニツチ），合戰（カツセン）　茂親（ヘツシン）

惡口（アクコウ）　一心（イツシン）　雜報（ザツポウ）　即刻（ソツコク）　失錯（シツサク）

第九章　疊音之綴方

第廿条　疊音ノ綴方トハ上ノ字ヲ其儘疊ミテ呼ブ音ヲ綴ル法ナリコレニ單疊音濁疊音複疊音複濁疊音ノ四種ノ別アリ次ニ説キ示スガ如シ

第一　單疊音　唯上ノ一字ノ音ヲ其儘ニ受續キテ綴ル法ナリ之ニハ（一）ノ符標ヲ用ユ例ヘバ（ちゝ）（はゝ）等ノ如シ

第二　濁疊音　唯上ノ一字ノ音ヲ濁リテ受続キ綴ル法ナリ之ニハ（ー）ノ符標ヲ用ユ例ヘバ（たゞ）（ほゞ）等ノ如シ

第三　複疊音　二字以上ノ音ヲ其儘受続キテ綴ル法ナリ之ニハ（〜）ノ符標ヲ用ユ例之バ（いよ〜）（まき〜）等ノ如シ

第四　複濁疊音　二字以上ノ音ヲ濁リテ受続キ綴ル法ナリ之ニハ（〜）ノ符標ヲ用ユ例之ヘバ（ひとぐ〜）（くにぐ〜）等ノ如シ

第廿一条　次ニ疊音ノ綴方ノ例ヲ示ス

第一　例之方綴音疊

複疊音之標　ホバ

濁疊音之標　ミバ

複疊音之標　タバ

單疊音之標　チバ

オヤい　コレい　オイい　アレい

トモバい　クレバい　チカバい　サマバい

第二　例之方綴音疊

七　心　笹　煤　挑

螺　響　蜆　硯　鏡

偶　愈　諸　各

時々　常々　悉　蟋蟀

第十章　疊字之用方

第廿二条　疊字ノ用方トハ疊音法トハ全ク異ナリ之ハ同行ノ文字以上続キタル片ニ最初ノ字ノミ全畫ヲ記シ次ノ字ヨリ單記号ノ線ヲ省キテ單ニ母字ノミヲ記ス法ナリ而メア經ノ文字ヲ疊ムニハ(ㅇ)ヲ用ヒイ経ニハ(ㅇ)ウ経ニハ(ㅇ)エ経ニハ(ㅇ)オ経ニハ(ㅇ)ヲ用ユ今斯ニ其一例ヲ示サンニ例ヘバカキクケコヲ疊ムキハ―(サシスセソ)ヲ疊ムキハト書ノガ如シ其他ハ次ノ例ニ付テ會得スベシ倘シ他行ノ文字其他ニ挾マルキハ此法ヲ行フヿヲ得ザルハ勿論ナレ𪜈(ㅇ)及ヒ(ㅇ)ノ二字ハ之ヲ挾ミ綴ルモ差支ナシトス例バ探偵ヲ―ト書キ改革ヲ―ト書クガ如シ其他ハ皆此例ニ異ナルコトナシ

第廿三条　次ニ疊字ノ用方ノ二三ノ例ヲ示ス之ニ就テ了解スベシ

第一　疊字用方之例

オ経之疊字

エ経之疊字

ウ経之疊字

イ経之疊字

ア経之疊字

モ　ナ　ム　ミ　マ

ノ　ネ　ヌ　ニ　ナ

差迫マル（サシセマル）

立止マル（タチトヾ）

貸坐敷（カシザシキ）

機械学（キカイガク）

第二　疊字用方之例

諸國（シヨコク）

博擊（ハクゲキ）

博学（ハクガク）

視察（シサツ）

事跡（ジセキ）

海軍（カイグン）

布告（フコク）

履歴（リレキ）

到底（トウテイ）

精神（セイシン）

苛酷（カコク）

各自（カクジ）

第十一章　捨假名之略記

第廿四条　捨假名ノ略記トハてにをはノ文字ヲ略シテ書ク法ナリ之ハ総テ言葉ノ後ニ付キテ其言語事物ノ順序位置等ヲ示ス者ニテ常ニ綴字ノ後ニ付キテ其意味ヲナス者ナリ故ニ決シテ綴字ト別々ニ書ク可カラス又最初ノ十二字ヲ記臆スレバ他ノ二字以上續キタル捨假名ハ自在ニ綴ルヿヲ得ルナリ

第廿五条　次ニ捨假名ノ文字ト其綴方ヲ示ス

捨假名略記之文字

ガ	デ	ト	ハ	モ・テ・ト
ハ	ゾ	ニハ	ヘハ	ニテハ
ノ	ヤ	ニト	ヘヅ	トヅヤ
ニ	ヨ	ニモ	デハ	ニヲヅ
ヲ	ハ	ヲバ	デモ	ヲトラ
ヘ	ニ	ヲト	ヅヤ	ノトモ
モ	モ	ヲヅ	ヅヨ	ノデモ
ト	ノデ	トラ	ヅト	トテハ

例之方綴之名假拾

モ狐、ニ兎、ハ猿、ト猫、ガ犬、

ヨ空、ヘ川、ヲ山、ヤ虫、デ鳥、

テ國、モデ人、ハニ神、ノ海、ヅ舟、

ヤトヅ雨、モテ風、トハ花、ヤヅ雪、モヲ月、

綴方ニ付テノ規則

第十二章

記号ハ捻テ一語ツヽハ離シテ書クベシ然レドモコヽノ、ソヽノ、カヽノ、抔ノ如ク短クシテ已ニ結ビ合セタル盡ニテ一ノ意味ヲナセル者ハ離サヾルモ妨ケナシトス

第廿六条

言語及ビ文章ノ書キ首メニハ必ス(リ)文首標(クウヘウ)ヲ付記シ句切リニハ(ノ)句読点(トウテン)ヲ付記シ段落ニハ(メ)段落点ヲ付記シ全ク畢リタルトキハ(ヱ)完結標(クワンキツヘウ)ヲ付記ス

第廿七条

ベシ

第廿八条　言語文章ノ一葉ニ書キ畢ラズシテ次葉ニ続ク片ハ紙尾ニ(○)未完標ヲ付記シ又夫ヲ受続ク片ハ紙首ニ(○)承前標ヲ付記スベシ

第廿九条　一ツノ言葉ニ二ツノ行ニ跨ル片ハ(三)連字標ヲ付記シテ次行ニ続クヨヲ示スベシ

第卅条　書キ落シヲナシタル片ハ其間ニ(∧)添注標ヲ付記シテ其下ニ書キ落シタル事柄ヲ書キ入ルベシ

第卅一条　一應寫シ取リタル事柄ノ後ニテ無用ニ属スル片ハ(……)廃文標ヲ付記シテ其無用ニ属スル分ヲ内ニ圍ムベシ

第十三条　記号連綴之例

右ニ説キ示ス総テノ記号ノ綴方ノ法ニ憑リテ次ニ單語連語ヨリ漸次進テ滑稽演説等ノ諸ノ記号連綴之例即チ實地言語速寫ノ方法ヲ示ス学者之ニ就テ習修練磨スベシ

記号連綴之例

單語之部

イト 糸

イヌ 犬

イカリ 錨

イド 井

イノコ 豕

イモリ 蝘蜓

カイ 櫂

シヨクダイ 燭臺

カウガイ 笄

カイ 貝

エビ 蝦

エダ 枝

エノキ 榎

エマ 繪馬

エグ 繪具

エンジュ 槐

サバエ 栄螺

タラヒ 盥

フルヒ 篩

トリイ 鳥居

オホ井 莞

アジサイ 紫陽花

笛

ヒエ
稗

カナヘ
鼎

イヘ
家

ナヘ
苗

トモエ
鞆繪

ツエ
杖

ツクエ
机

クワヰ
慈姑

クツワ
轡

イワシ
鰯

オビ
帶

オホカミ
狼

オリモノ
織物

カワラ
瓦

カレハ
楓

クハ
鍬

ヲノ
斧

ヲシドリ
鴛鴦

ヲリホン
折本

サヲ
竿

ウヲ
魚

バセウ
芭蕉

カホ
顏

スズメ 雀

子ズミ 鼠

スズ 鈴

ウヅラ 鶉

ナマヅ 鯰

ミズノミ 水呑

モモ 桃

クリ 栗

ナシ 梨

カキ 柿

ホヽヅキ 酸漿

アサガホ 牽牛花

キジ 雉子

ニジ 虹

フジノヤマ 富士山

モミヂ 紅葉

アヂ 鯵

フヂノハナ 藤花

リンゴ 林檎

ミカン 蜜柑

ザクロ 柘榴

ビハ 枇杷

イネ 稲

ナス 茄子

ブドウ 葡萄

サヽゲ 大角豆

キウリ 胡瓜

カボチヤ 南瓜

スイクワ 西瓜

タケノコ 筍

キノコ 蕈

ダイコン 蘿蔔

ニンジン 胡蘿蔔

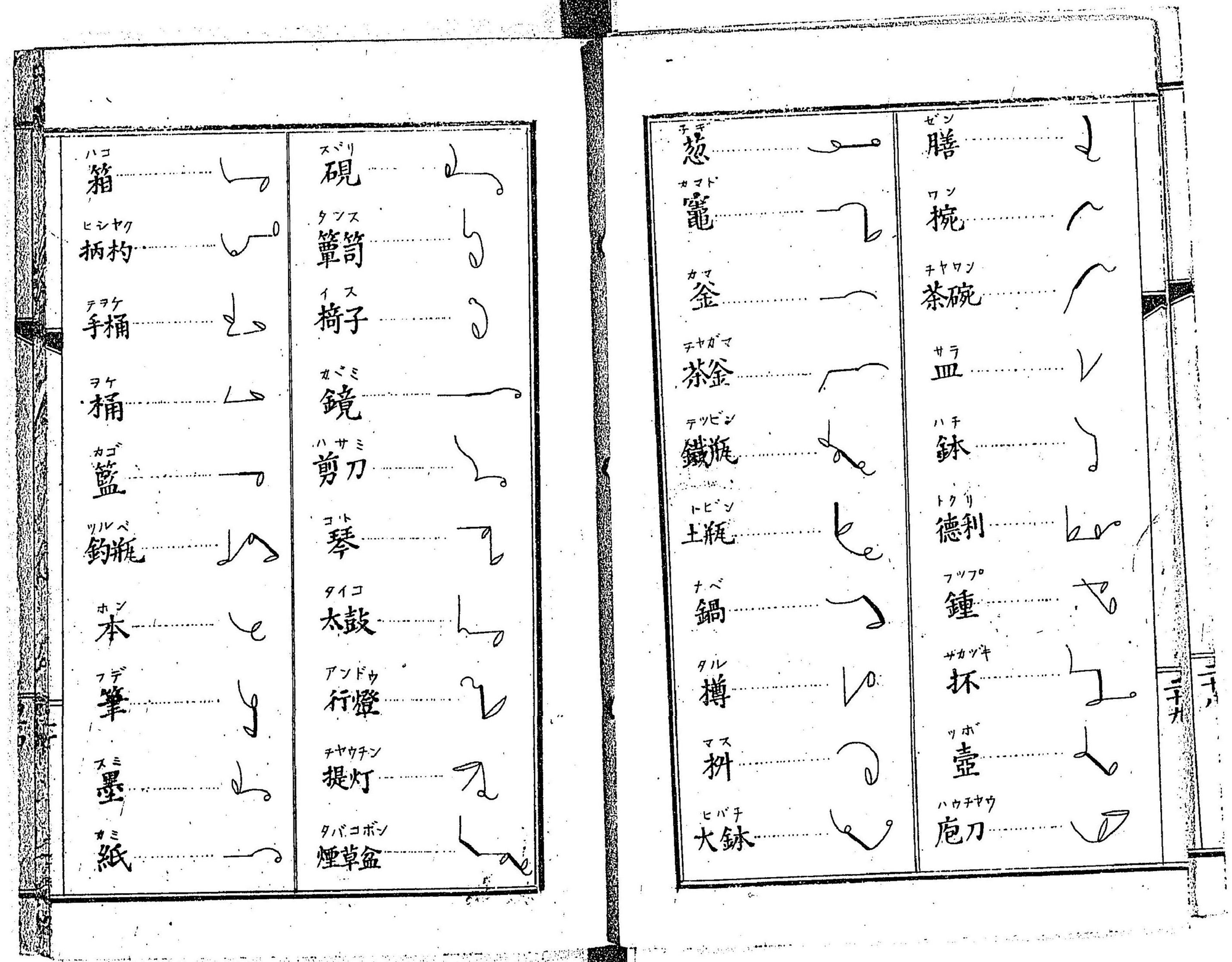
カブラ 蕪

レンコン 蓮根

ハジカミ 薑

イモ 芋

ゴバウ 牛蒡

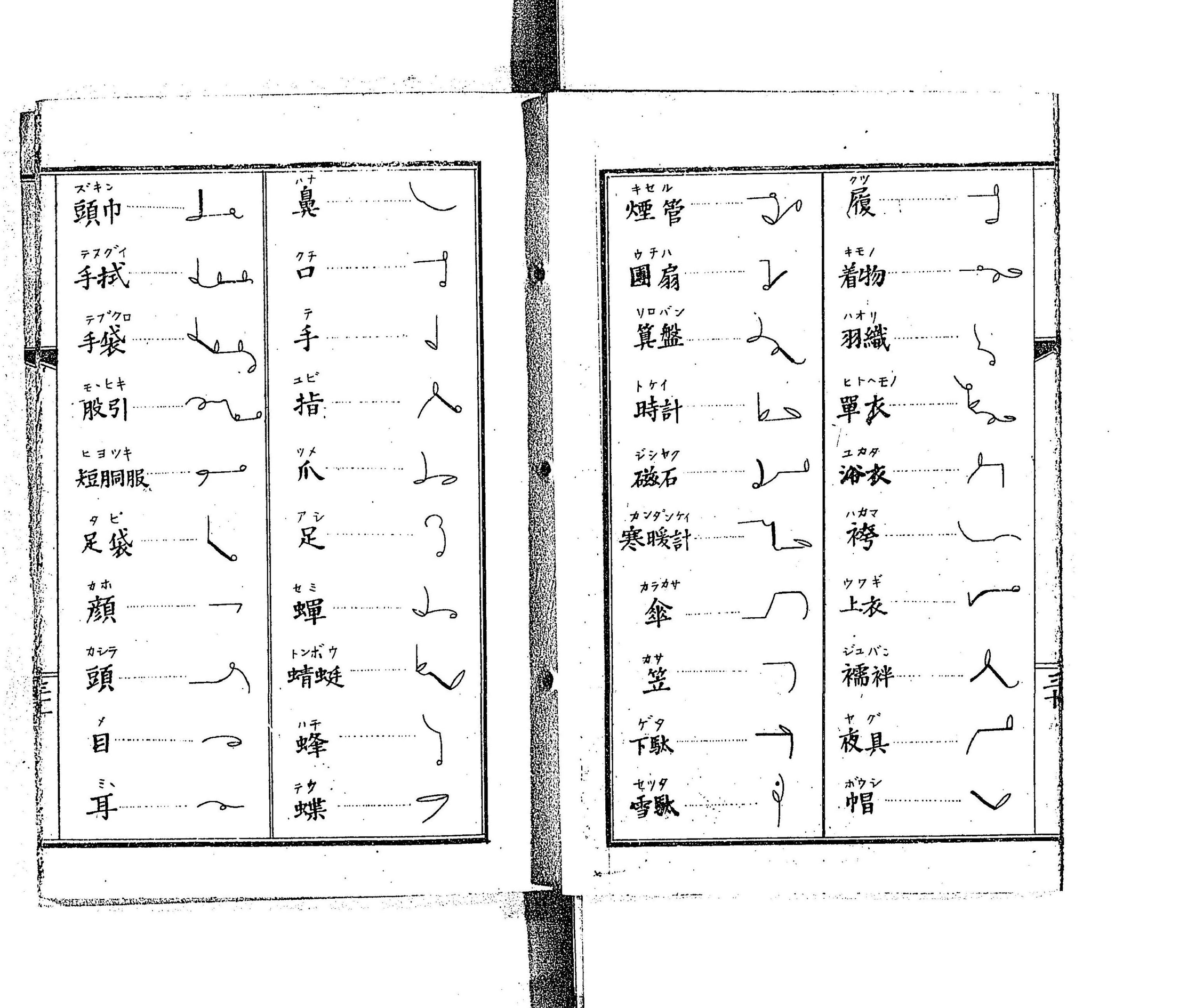


ハコ 箱
ヒシヤク 柄杓
テヲケ 手桶
ヲケ 桶
カゴ 籃
ツルベ 釣瓶
ホン 本
フデ 筆
スミ 墨
カミ 紙

スヾリ 硯
タンス 箪笥
イス 椅子
カヾミ 鏡
ハサミ 剪刀
コト 琴
タイコ 太鼓
アンドウ 行燈
チヤウチン 提灯
タバコボン 煙草盆

チギ 葱
カマド 竈
カマ 釜
チヤガマ 茶釜
テツビン 鐵瓶
トビン 土瓶
ナベ 鍋
タル 樽
マス 枡
ヒバチ 火鉢

ゼン 膳
ワン 椀
チヤワン 茶碗
サラ 皿
ハチ 鉢
トクリ 徳利
ツツプ 鍾
ザカヅキ 杯
ツボ 壺
ハウチヤウ 庖刀



頭巾（ズキン）
手拭（テヌグイ）
手袋（テブクロ）
股引（モヽヒキ）
短胴服（ヒヨツキ）
足袋（タビ）
顔（カホ）
頭（カシラ）
目（メ）
耳（ミヽ）

鼻（ハナ）
口（クチ）
手（テ）
指（ユビ）
爪（ツメ）
足（アシ）
蟬（セミ）
蜻蛉（トンボウ）
蜂（ハチ）
蝶（テウ）

煙管（キセル）
團扇（ウチハ）
箕盤（リロバン）
時計（トケイ）
磁石（ジシヤク）
寒暖計（カンダンケイ）
傘（カラカサ）
笠（カサ）
下駄（ゲタ）
雪駄（セツタ）

履（クツ）
着物（キモノ）
羽織（ハオリ）
單衣（ヒトヘモノ）
浴衣（ユカタ）
袴（ハカマ）
上衣（ウワギ）
襦袢（ジユバン）
夜具（ヤグ）
帽（ボウシ）

山吹（ヤマブキ）
櫻（サクラ）
牡丹（ボタン）
燕子花（カキツバタ）
百合（ユリ）
柳（ヤナギ）
桔梗（キヽヤウ）
萩（ハギ）
菊（キク）
南天（ナムテン）

蜘蛛（クモ）
蛇（ヘビ）
蜈蚣（ムカデ）
蛙（カヘル）
蟹（カニ）
亀（カメ）
松（マツ）
竹（タケ）
梅（ムメ）
椿（ツバキ）

鶯（ウグヒス）
馬（ウマ）
牛（ウシ）
猫（ネコ）
猿（サル）
兎（ウサギ）
熊（クマ）
鹿（シカ）
猪（イノシヽ）
狐（キツネ）

水仙（スイセン）
鶴（ツル）
雁（カリ）
鷹（タカ）
鳶（トビ）
烏（カラス）
鶏（ニハトリ）
鳩（ハト）
雀（スヾメ）
燕（ツバメ）

鮒（フナ）……

金魚（キンギヨ）……

鰻（ウナギ）……

狸（クヌキー）……

鯛（クヒ）……

鯉（コヒ）……

連語之部

第一

神ハ天地の主宰ましてと
人ハ萬物（バンブツ）の靈（レイ）なり

信を主を
めを愛を
修る友（ユウ）、
を交る
身は親（シン）ハ
て人際（サイ）
以て間の
を以て弟（テイ）す
道（ウ）を子（シ）
善（ゼン）義（ギ）兄（ケイ）と
親（シン）しら

親ひ父といふ祖父を父の母といふ祖母を

叔父と母叔母父叔父を伯父を伯母の兄弟を伯母妹の親ひ親といふ

物を書しべし出てハ校学ハ又手習すべし読み

知り事物の理を学ぶ書物ハ文字の形を手習ハ

時七時三前後午午ハハ始めり終の業授業なり

盤算ハ外の書きを読

ベー
孝ぶ

〃

為の物運ハすふを歩遊め

〃

散を氣ハなすを動運ド為めげふを養體

〃

読を物書を孝ぶ盤又ハ算バ習終れー手動運ヒ

〃

を物書在る居処此ハ処其ハ我ハと習手君

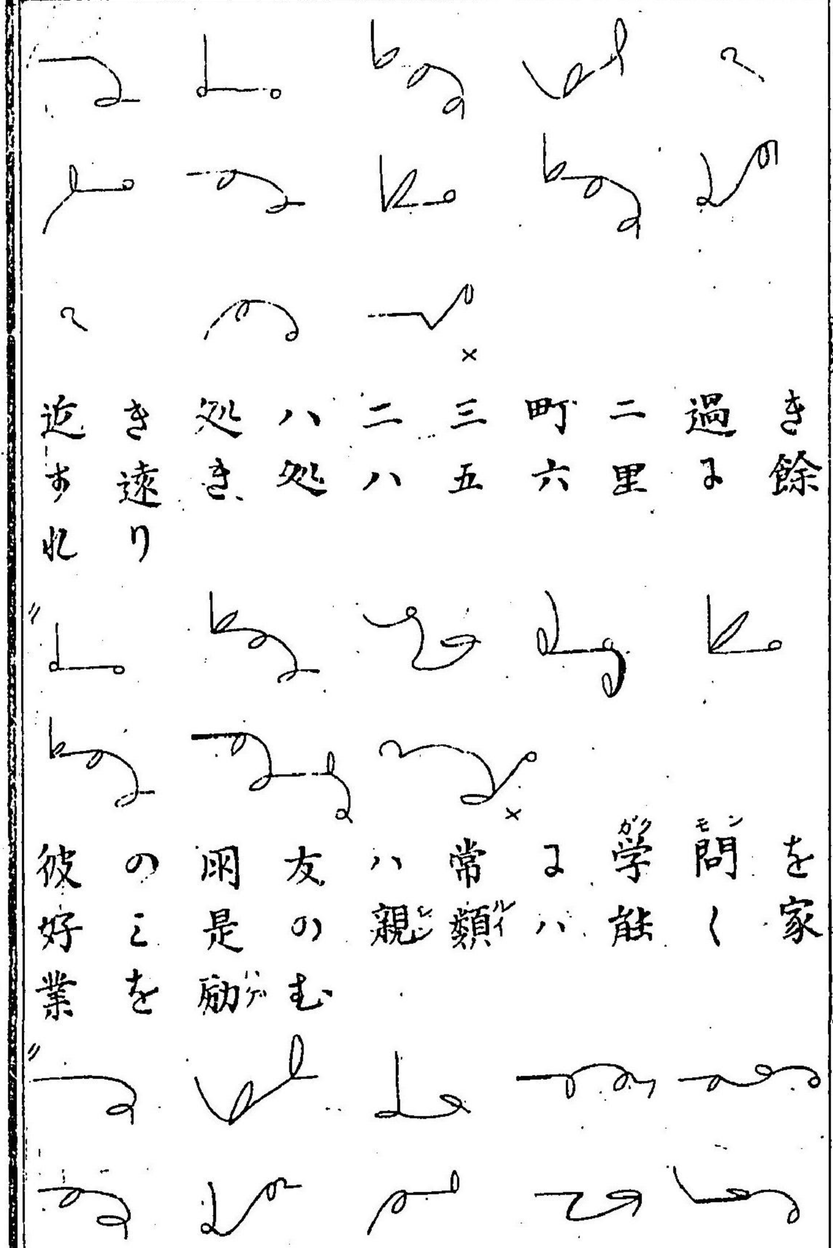
〃

きり往帰る時処何ハ子女小此のやぞ彼ー

〃

家親のの友処る用きへの遠帰ハ處ハり き是よ近き家ハ往の彼ま類

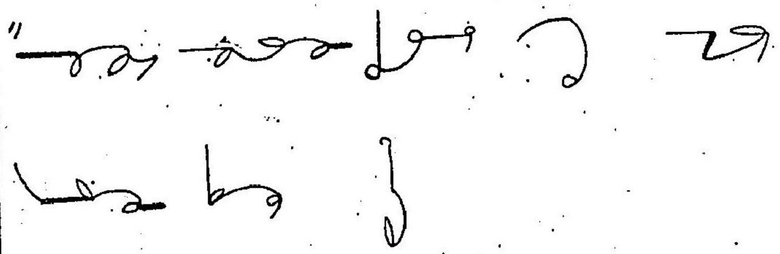
〃



き過ぎる
二里六町
三五×
二八
八処
処き
き遠り
遠すれ

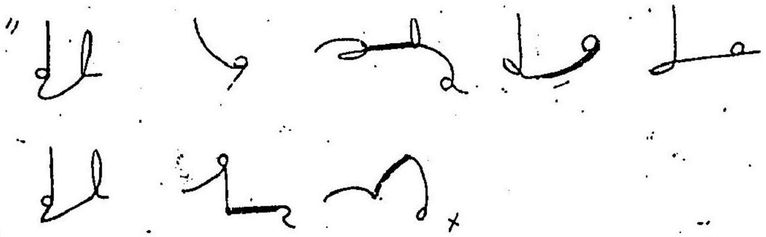
彼の朋友ハ常ニ学問を好ミ是の親類ハ能く家業を励む

増致を識を富ハ智を富ハめ好を励を問家業を学ーす



第四

ドる轉環ハて周りひて隨を日球ハ地球ハ地月



ひふいとい夜と畫を間を後を隠て有る日の日の

日夕ハ東を方とす
朝日の方を西とす

霜ハ春の年の去早て
冷ハ秋の今少き雨く
ハ秋年ハ
ハ晩ハ

秋ハ花ハ日ハ
開く林の
鳴く蟲の
叢タ

風北ハ冬ハ多く風南ハ夏多し

寒リ茂リ木草ハ水泉ハ時ハ暑時
き
と
て
き
ハ鳴く
雷き

杖（ツエ）
机（ツクエ）
慈姑（クワヰ）
轡（クツワ）
鰯（イワシ）
帶（オビ）
狼（オホカミ）
織物（オリモノ）

笛
稈（ヒエ）
鼎（カナヘ）
家（イヘ）
苗（ナヘ）
鞆繪（トモエ）

折本（ヨリホン）
竿（サヲ）
魚（ウヲ）
芭蕉（バセウ）
顔（カホ）

瓦（カワラ）
楫（カシハ）
鍬（クハ）
斧（ヲノ）
鶯（ヲシドリ）

スズメ 雀

子ズミ 鼠

スズ 鈴

ウヅラ 鶉

ナマヅ 鯰

ミズノミ 水呑

モモ 桃

クリ 栗

ナシ 梨

カキ 柿

ホヽヅキ 酸漿

アサガホ 牽牛花

キジ 雉子

ニジ 虹

フジノヤマ 富士山

モミヂ 紅葉

アヂ 鯵

フヂノハナ 藤花

リンゴ 林檎

ミカン 蜜柑

ザクロ 柘榴

ビハ 枇杷

イネ 稲

ナス 茄子

ブドウ 葡萄

サヽゲ 大角豆

キウリ 胡瓜

カボチヤ 南瓜

スイクワ 西瓜

タケノコ 筍

キノコ 蕈

ダイコン 蘿蔔

ニンジン 胡蘿蔔

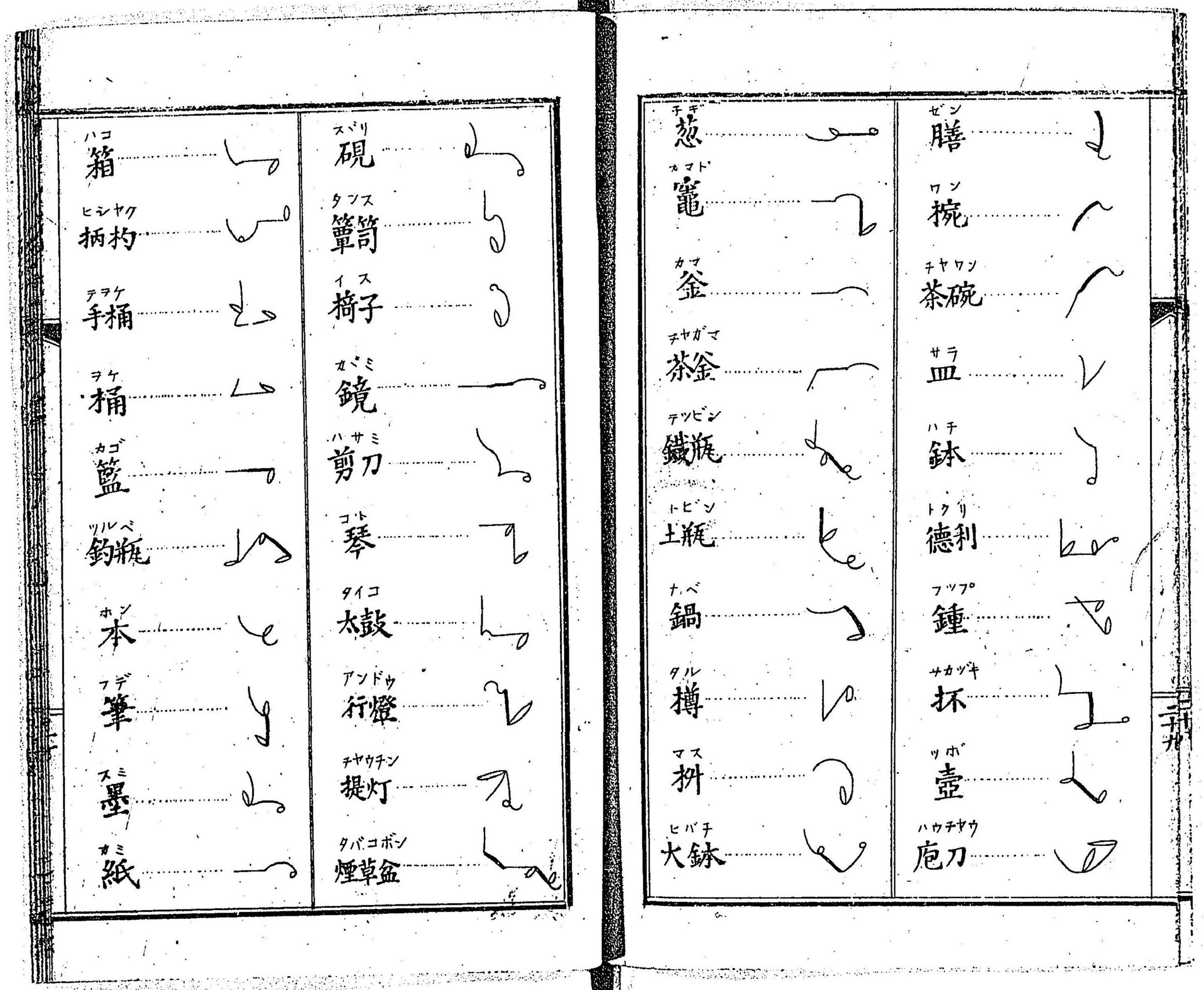
カブラ 蕪

レンコン 蓮根

ハジカミ 薑

イモ 芋

ゴバウ 牛蒡



ハコ 箱
ヒシヤク 柄杓
テヲケ 手桶
ヲケ 桶
カゴ 籃
ツルベ 釣瓶
ホン 本
フデ 筆
スミ 墨
カミ 紙

スバリ 硯
タンス 簞笥
イス 椅子
カヾミ 鏡
ハサミ 剪刀
コト 琴
タイコ 太鼓
アンドウ 行燈
チヤウチン 提灯
タバコボン 煙草盆

チギ 葱
カマド 竈
カマ 釜
チヤガマ 茶釜
テツビン 鐵瓶
トビン 土瓶
ナベ 鍋
タル 樽
マス 枡
ヒバチ 火鉢

ゼン 膳
ワン 椀
チヤワン 茶碗
サラ 皿
ハチ 鉢
トクリ 徳利
ツツプ 鍾
サカヅキ 杯
ツボ 壺
ハウチヤウ 庖刀

履（クツ）
着物（キモノ）
羽織（ハオリ）
單衣（ヒトヘモノ）
浴衣（ユカタ）
袴（ハカマ）
上衣（ウワギ）
襦袢（ジュバン）
夜具（ヤグ）
帽（ボウシ）

煙管（キセル）
團扇（ウチハ）
箕盤（リロバン）
時計（トケイ）
磁石（ジシヤク）
寒暖計（カンダンケイ）
傘（カラカサ）
笠（カサ）
下駄（ゲタ）
雪駄（セツタ）

鼻（ハナ）
口（クチ）
手（テ）
指（ユビ）
爪（ツメ）
足（アシ）
蟬（セミ）
蜻蛉（トンボウ）
蜂（ハチ）
蝶（テウ）

頭巾（ズキン）
手拭（テヌグイ）
手袋（テブクロ）
股引（モヽヒキ）
短胴服（ヒヨツキ）
足袋（タビ）
顔（カホ）
頭（カシラ）
目（メ）
耳（ミヽ）

蜘蛛（クモ）
蛇（ヘビ）
蜈蚣（ムカデ）
蛙（カヘル）
蟹（カニ）
亀（カメ）
松（マツ）
竹（タケ）
梅（ムメ）
椿（ツバキ）

山吹（ヤマブキ）
櫻（サクラ）
牡丹（ボタン）
燕子花（カキツバタ）
百合（ユリ）
柳（ヤナギ）
桔梗（キヽヤウ）
萩（ハギ）
菊（キク）
南天（ナムテン）

鶯（ウグヒス）
馬（ウマ）
牛（ウシ）
猫（ネコ）
猿（サル）
兎（ウサギ）
熊（クマ）
鹿（シカ）
猪（イノ）
狐（キツネ）

水仙（スイセン）
鶴（ツル）
雁（カリ）
鷹（タカ）
鳶（トビ）
烏（カラス）
鶏（ニハトリ）
鳩（ハト）
雀（スヾメ）
燕（ツバメ）

狸（クヌキ）……　鮒（フナ）……

鯛（タヒ）……　金魚（キンギヨ）……

鯉（コヒ）……　鰻（ウナギ）……

連語之部

第一

神ハ天地の主宰ましてと
人ハ萬物（バンブツ）の靈（レイ）なり

信を主
めを愛
修る愛（アイ）
を交友（ユウ）、
身は親（シン）
て人ハ際（サイ）
以て間の
を以て弟（テイ）す
道を子（シ）と
善義（ゼンギ）兄（ケイ）
親（オヤ）ら

親の父を祖父といひ親の母を祖母といふ

叔父と叔母を伯父を伯母といふ親の兄弟を伯父叔母といひ親の姉妹を伯母といふ

書物を読み又手習すべし

学校は出てハ

書物ハ事物の理を知り手習ハ文字の形を学ぶ

時七前午ハ始めの授業

時三後午ハ終りの授業なり

算盤を書きの外ハ読

学ぶべし

為の物運ハすふを歩遊め

散を氣ハなすゲ為め運動を養ふ體

読を物書を又盤ハ算れ終習手動運

を物書て居る此ハ処ハ我ハ習ス君読手

きり往帰る時何ハ子兒女小此のやぞ彼ー

家親の友処る用きへの遠帰處ハり き是よ迄き家ハ往の彼る類

き過る二里六町三五二八ハ処き処き遠りて近すれ

彼の朋友ハ常ニ学問を好ミ家業を励む

増致を識を智ハ富ハ

めハ励を家業を

学問を好めハ

ます

第四

転ドる環てひて周りを隨ひて日ハ地球ハ地球ハ地月

ひるといふ間を晝といふ後を夜といふ

日の有て隠て日の

日夕ハ東を西とす

朝日の方

霜ハ春ハ秋ハ冷ヨリ暖ヨリ

去年の今年ハ少キ雨

秋ハ花ハ林ハ蟲ハ開キ鳴ク

春の日の夕ハ叢ハ

風ハ北ハ冬ハ多ク風ハ南ハ夏多シ

寒キ夏ハ雷キ暑キ時ハ雨ハ鳴ル

木ハ草ハ水ハ泉ハ茂リ凍ル時ハ

第五

魚類ハ穀類ハ常ニ人ノ食スルモノ

常洋ハ西洋ノ人ハ肉ヲ食ヒ鳥肉ヲ食ヒ獣肉ヲ食ヒ

日本ノ人ハ魚類ヲ食ヒ獣肉ヲ食ヒ

可食ヲ食ヒ

ヲザ

ルセタ熟ス

煮ハ物ノ菜菓可野菜ヲ

ケアル助ヲ害ル生ヲ健康ハ養ハ健ハ汁乳ト草煙ト水酒リ

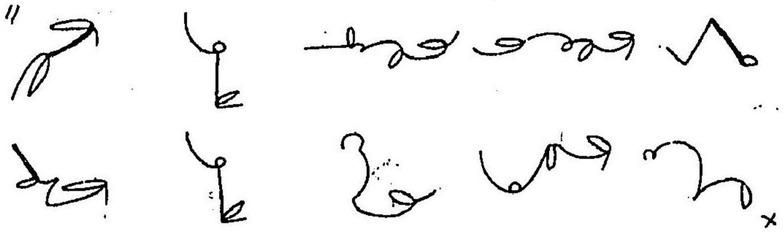
物ハ飲ノトモ物ノ戒ヲ食ハ強ヲ勉寐ハ人ノ畫ビラト生ル寐ヲ養ヲ朝

成ル來リ

健ハ生ハ養ハ

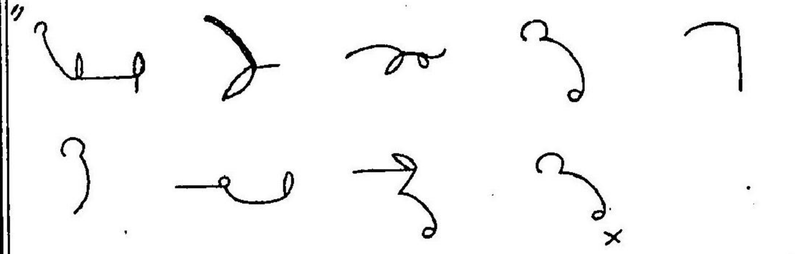
康ヨリ

強ハ勉康

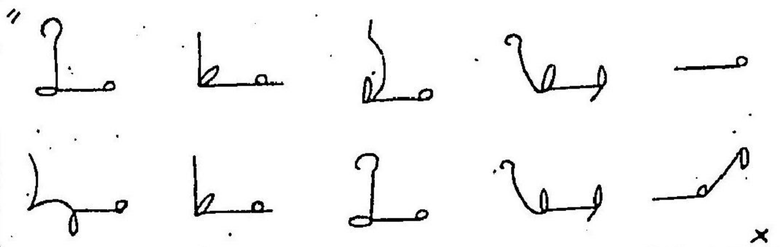


第六

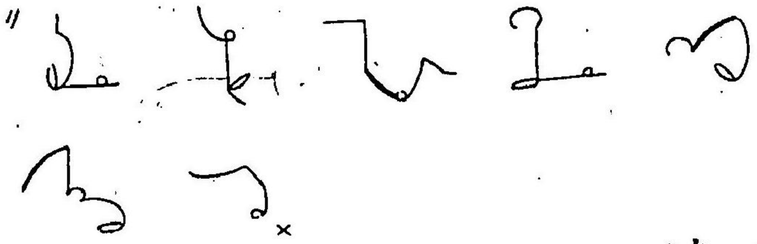
衣服の料ハ木綿(モメン)あり又麻(アサ)絹(キヌ)毛(ケ)織(オリ)あり



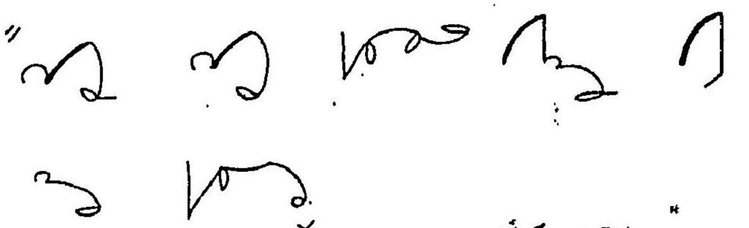
暑き時ハ薄き衣服を着
寒き時ハ厚き衣服を着



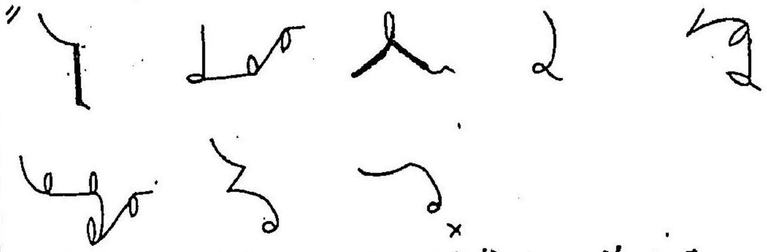
薄きハ帷子(カタビラ)にて厚きハ袷(アワセ)綿(ワタ)入(イレ)なり



袷ハ合せたるもの綿入ハ綿を入れたるなり



肌ニ貼(ハリ)くるハ襦絆(ジユバン)にして織(オリ)なハ羽織(ハオリ)する服ハ表ニてリ



帽(ボウ)を被(カブ)り袴(ハカマ)を着る

又革草きハく

は日はをのをを

蹈晴靴又足く

ハはゐ時を用

の靴を長履

雨

第七

官ハ左リ造を家ハ工大壁を塗る

屋作る

後地ゝ下塗

てハを立壁土

をきゐ

柱ふ後

ハをて

家根り

塗中け付す

軒をな

り塗

より上

根り

屋よ

襴押入をつけ畳建具を入る

我邦の家ハ木を以て造り
西洋の家ハ尾石を以て畳
む

架書(カショ)を後へ居へ机を前に置く

書せ載の紙筆硯墨ハ和漢西洋を
机書架に積めり

庭(ニワ)に花を栽(ウヘ)
池に多くの魚を畜(カフ)

春秋の景色(ケイショク)ハ朝夕
の眺望(テウボウ)よし

第八

十ハ夜を起き五時に朝
時に臥す

食ずすめも厭を求を飽を労ハきハ時とくる働す

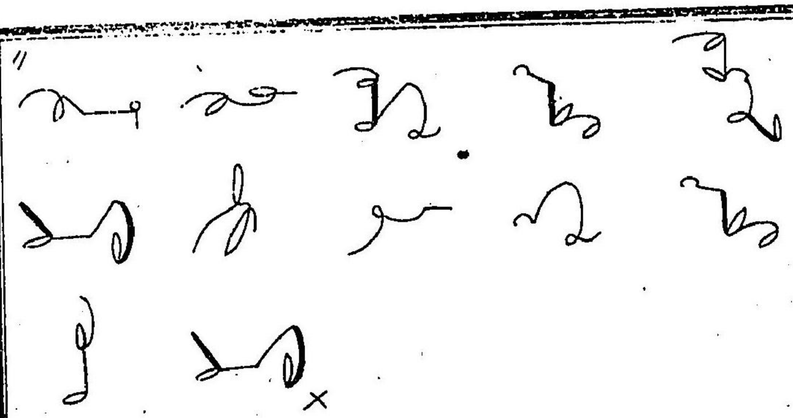
な愚ひ習ゆを教事を物る人る人賢

人藝をるしるたえふり覚誨知ずる知ぢ者ハ事恥ぬぬをえず知る問覚ち厭

と歩るれて疲ける緩ルクるし速りとハあれしハ時とけあ

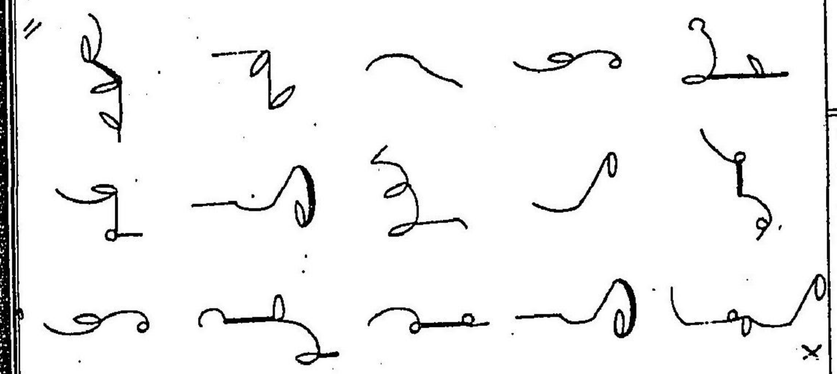
るこ遅少走くハと蹟ツマヅ時こと急ルむい

雖用つと有棄スプずるしらとるハ雖べとのぶ賤イヤシのの弄モテアソハらの益エキるる品かへ無ムとの

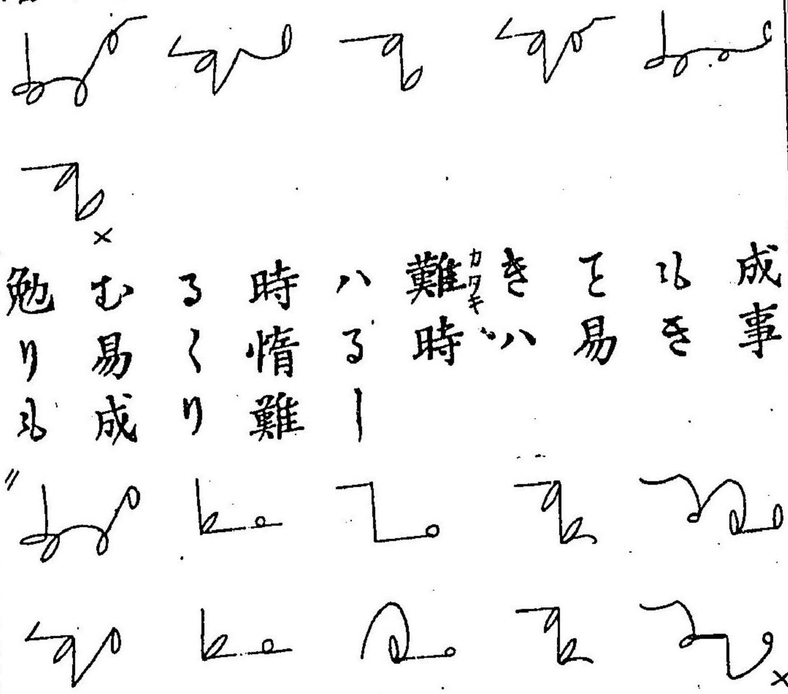


第九

けゝる右
急かだ
みそれ
のろ揚る
まをみな
前ずのく
事必を低
のハ左ず
て後り必
総ハなハ

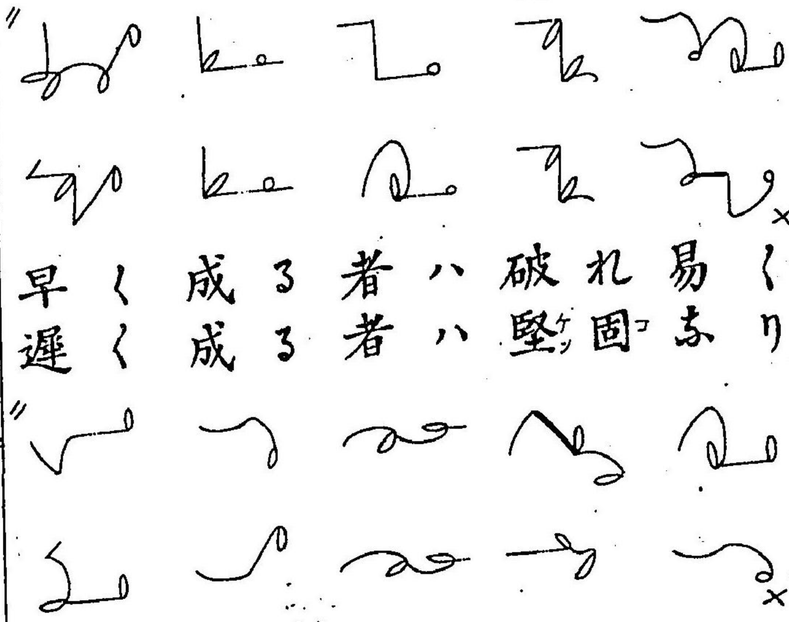


ことぬらハ惰とるハ勉



どこぬめハとるた惰

成事
ゐきを易ハ難き時ハ
勉むる時ハ惰る時ハ
りゐ易く成り難し



くり易ふれ固破ハ者ハ者る成く早
短をてきつ反バ誇れ事る劣き長

る優は きは強は 遂は バ れ守ことあり

とるぎら こ曲れ逆り

いハ折ず な

るのぞら徳

折もま曲の

ハる撓(タハトカ)徳柔

のなりのハ

も柔(ヤワラ)あり剛る

きりとハぎ

剛(コハ)あこるハ

第十

い十を
とひ匁

釐い千り
一とひな

を分いふ
毛一とい

十を匁と
ハ釐一目

目十を貫
秤ひ分一

とひ寸一
釐い十を

一とひ尺
を分い十

毛一とひり
十を寸いふ

ハ釐一とふ
名十を尺い

のひ分一と
尺い十を丈

い十を石
とひ升一
句い十を
一とひ斗
を合い十
オ一とひ
十を升い
ハ句一と
目十を斗
升ひ合一
といふなり

坪三畝一
一ふ十を
をいひ段
方とい十
四歩とひ
尺一畝云
六又一とふ
ハひを段
割云歩一
地と十を町

と町を一間十六ハ
里を一町六十三
路程ハひいふ

保の犬洋妻(カメ)(ヤイ)(ゴン)権る

越(コシ)をふ丶

引(ヒキ)護

〃

虫ふいと的(テキ)且(ダン)尻(シリ)の女(ナヨ)

下(ケ)ぐつき

〃

辛(カラシ)を方目る癖(クセ)の屋(ヤ)糖(トウ)賣り

砂(サ)く

〃

と清(セイ)まふいて居る水(ミズ)泥(ドロ)

云ひ譯(ワケ)丶

〃

發句之部

古池や蛙飛ひ込む水の音

蒲團着て寐るさ姿や東山

七景ハ霧よかくれて三井の鐘

だまされて来て誠ふり初櫻

都々一之部

時も草も股をくゞるも

韓信の世と時節踊れと

花ゲ咲く

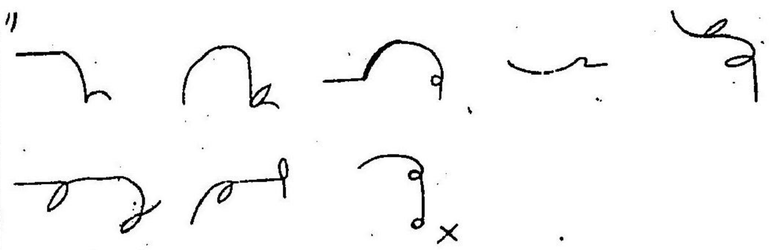
昔の地震ハ鯰だそふな

今ハ鯰ある地震

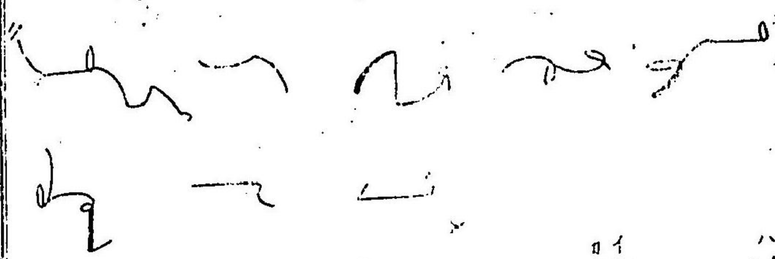
先の心をたつかと正！

そして苦楽をとる白髮

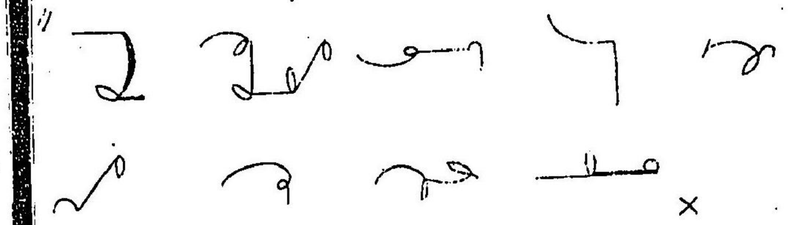
唐も倭もかはりのないハ
惚れと心とよくのみち



條は
博覧會ふら私の胸に
約濟だと書いてあく

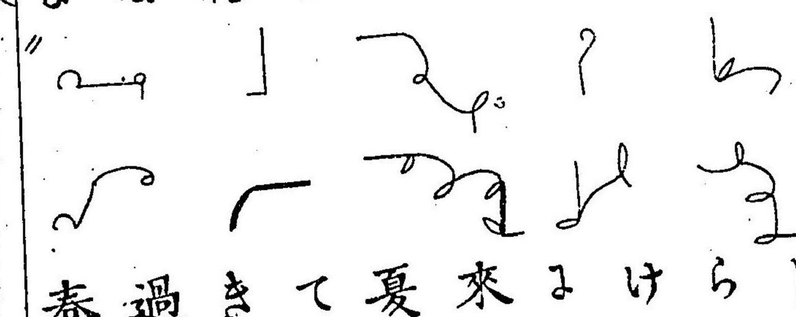


風がもて来る二階の端
唄思ある身の胸に釘

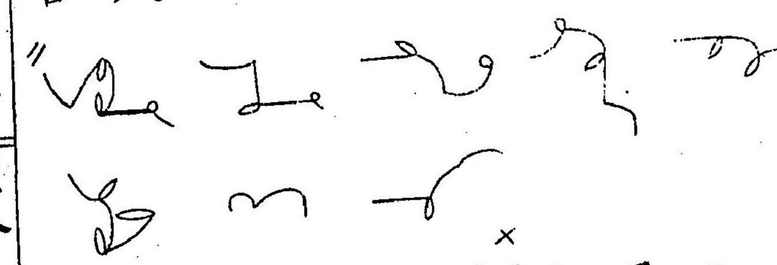


和歌之部

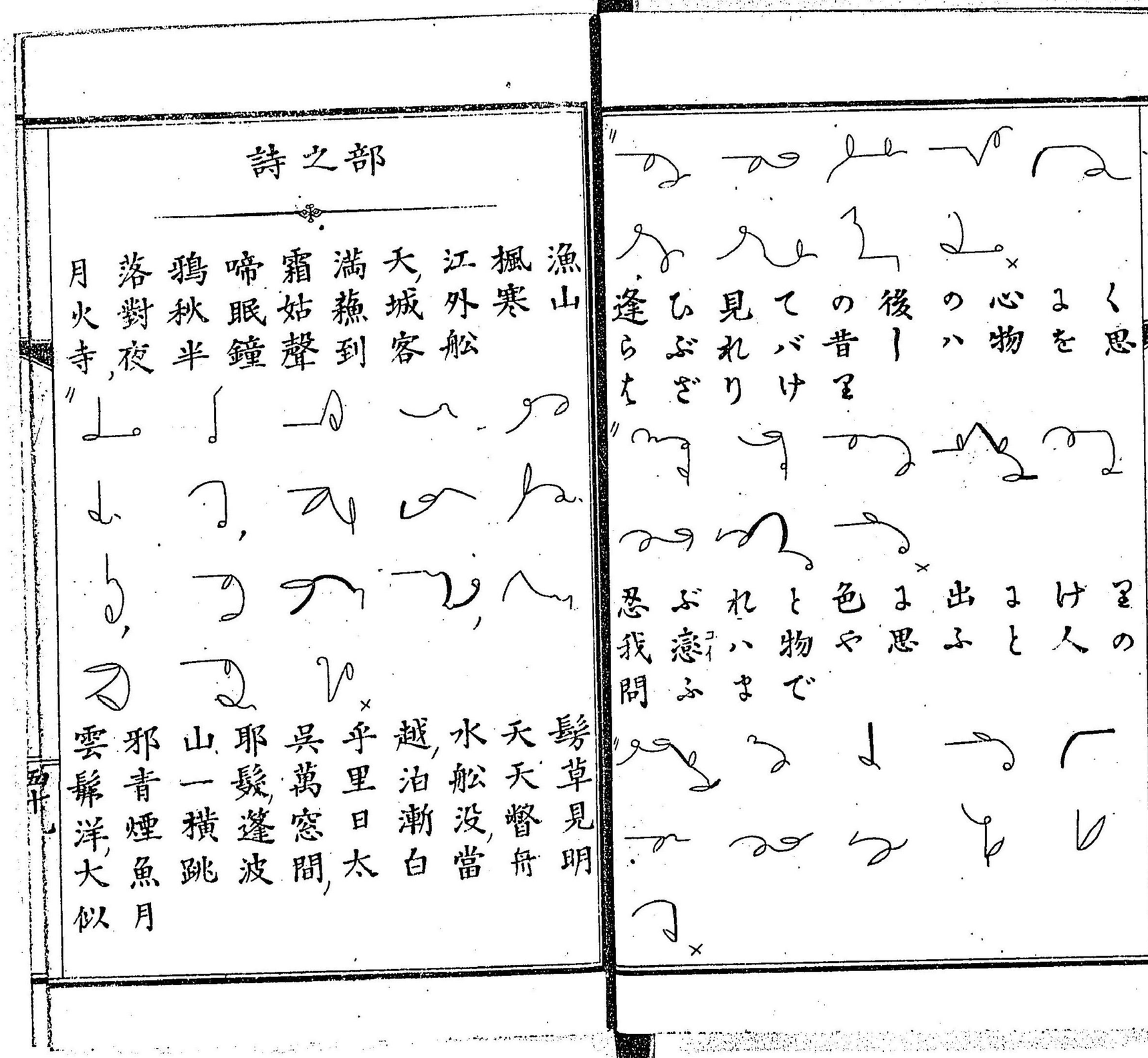
比露ハ庵のかりはの手衣我
秋の田のあらみをとまぬれつゝ



春過ぎて夏來ようけふの天
白妙の衣はもの山
香久



これやまの徑も歸るも
別れてハ知るも去らぬ
も逢坂の関



よく思ふ
心を物の
ハ後の
昔の
見てバ
ひぶれ
逢ひたざり
星のけ人
まと出ふ
まと思
色や
物で
れハまで
ぶ憑ふ
恐我問

詩之部

漁山　髮草見明
楓寒　天天督舟
江外船　水船没當
天城客　越泊漸白
滿蘓到　乎里日太
霜姑聲　吳萬窓間
啼眠鐘　耶髮蓬波
鴉秋半　山一横跳
落對夜　邪青煙魚月
月火寺　雲髯洋大似

泉錢
林有
為自
坐中
偶嚢
識酒
相法
不愁
人莫
主謾

浄瑠璃之部

理和佐の陣八

都体相伺ゲさひれ安や
ぞ勿ハ多森た為を弘
らりとドのまひまのま
志ら葉さん孫れも氣
蔭てゲふふほねくる姫言
ハ中な思あてるの居とみ
とれとをらつれとてぬ姫
心ゴこ相やふ忘ひふせる
ほおい母へまるさとまふ
至でなや変若ゴ又志へ先

眼医論（めいろん）

まえイす眼うゞかなふ
ひ足（いで近（さんハヤい
向ゝふ御ますせで（オとゝ
お娘よ嫁ゑまま眼へ眼ん
とお志のいい足近ね遠せ
イいで変しせくらゞめま
ヨしの伺彼惜感能ふすより
チ義ゞハゝでゞんでモあ
しるすれだ枕まき答（デハ
若頗まあョの私ァ嫁いぜで

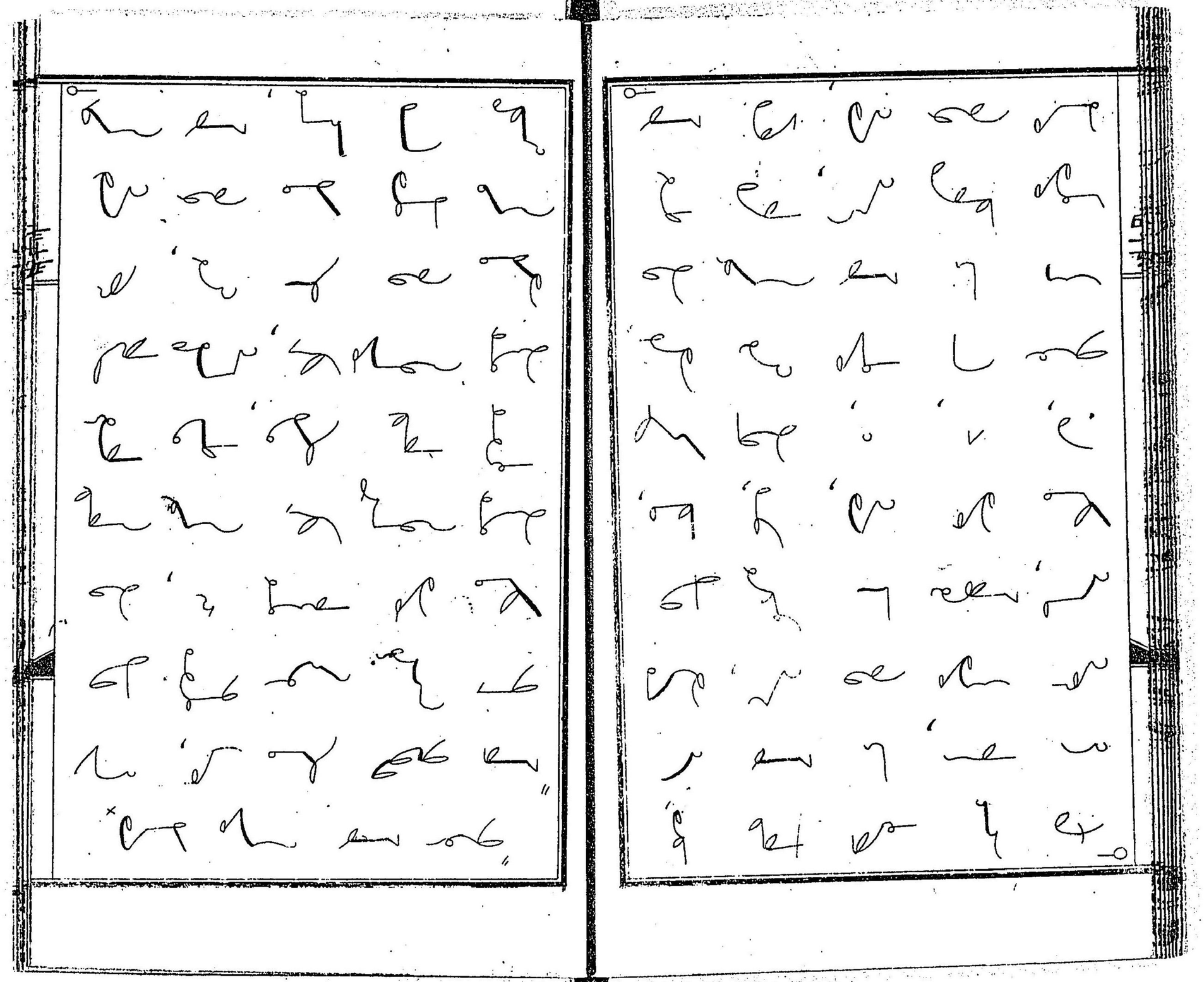
演説之部

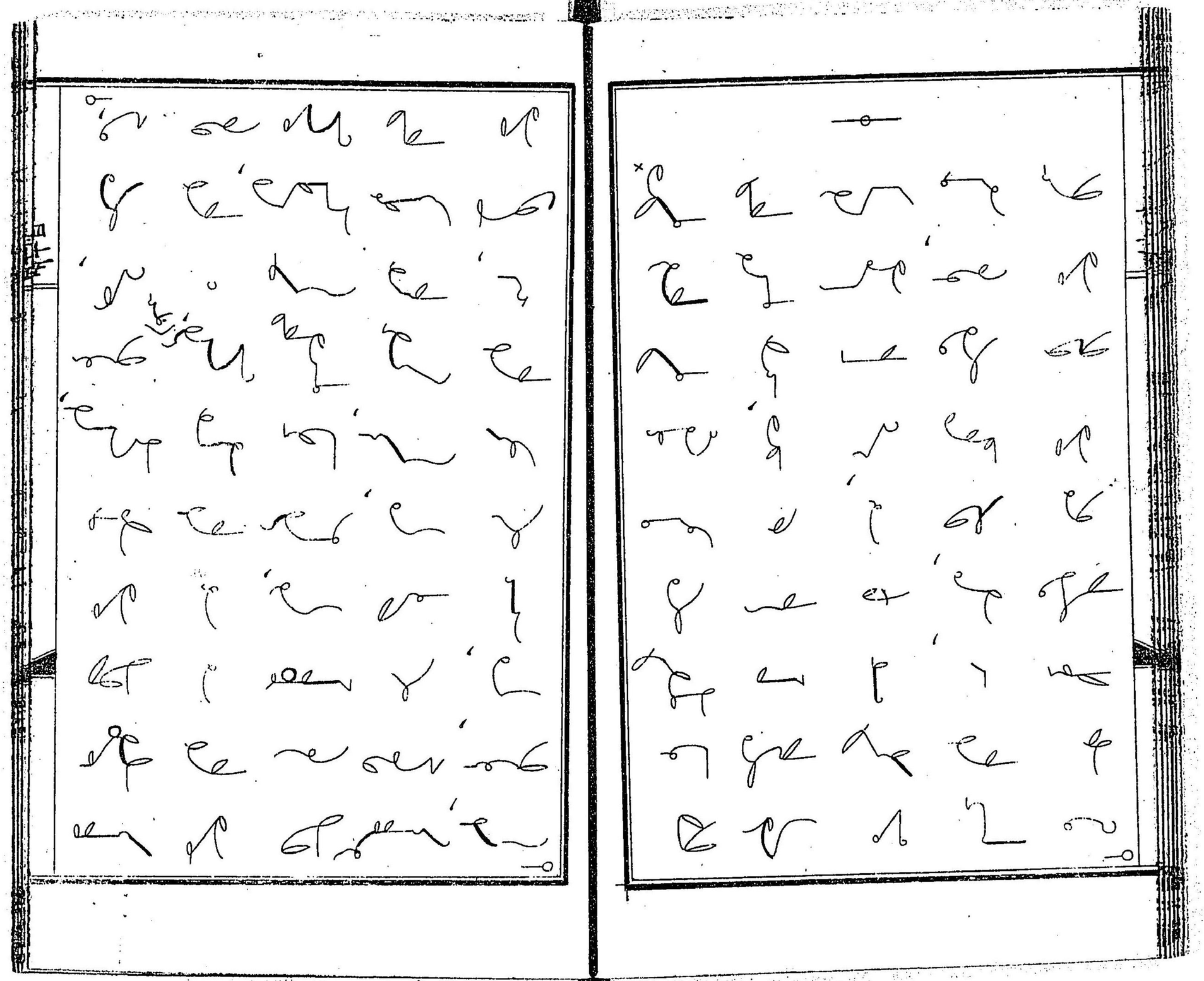
述ナザ貿其法事ガ法種盡ヒヲス
演益々商テ方ノ人方者ビ雖ブト
生有待通於ノ切吾ノキ学ト學フ
先ニヲ接ニルン緊シルベニスヲノ
紀上々直日ザニ蓋ザス易非語要
綱業喋ニ今カ誠シカ究容ニ英緊
源商更人ノ招ハ可招講テ者ニ大
ノ今外ルヲブフヲノリキ一最
語ハヒヌ失學云失豫アベ第テ
英ルレ易損ラト損ヲ々ス先以

ヲ
語ラス
英可
ハル
人ザ
商学

ハンリスノス学ンニベノニ英最ルソリ則多バハ於
云ラ獨ラ邦トヲラ者学ル之ニニスセイ正ハレ能ニ
トア唯非万リ語アルヲス皆故上惟ガニバ丁人
語者民ニ他ア英所然語商ネシ商思之ンサス商
英ルコリ國ル其ルニルテ英通概ナ通トヒバ費来ノ
ニスエイ英ス伊イ来單スシトハハテリ然李ヲヲ際サイ
單難クエキ易墺アア亦ソ益決凡人人ルシナリデ日全實ゼンジツ
ニハ曰ホウ貿魯ロモ何其之ス國商ザヲ要ナン時完クワン ヒ
茲或チシヤウ商ドク獨人バモトラ外國ゼ学緊以履フノガレ
令バ即ツウ通フツ佛商レブヤ非バ萬通語大所ヲ年之ザ

ルラザ十便ノ考諸益キモ大ニ利堅
アゲハ至ガ驗ケンヲ志裨ヒ苟ノ速ノ糞キ
意妨能ノ之經ケイ法有ニス家ハ來ヲ グ
ノニル嘆タンニ年成ニ世ト國者將丁 揚
ブ劇ゲキス慨ガイフツ多速茲テンシルトン ニ
学繁ハン事豈生シ語テシラ事ス人レ 次
ラノ從シ小究キウ英依業ア從望バウ吾ラ ハ
之務ムニ多ヤ考コウノリ授所ニ希キテ謀 文
ハ業ゲフ之者スヲ一セニル業ヲリヲ 反
テモレルラ法上出士ス商盛來益ス 此





附言　筆記者之心得

一　記号ハ左ヨリ右ニ成丈ケ真直ニ綴リ書クベシ

二　筆ハペン又ハ鉛筆ヲ用ユベシ毛筆ハ不便ユエ用ユベカラズ

三　紙ハペンヲ用ユル片ハ堅厚ノ西洋紙ヲ善トス鉛筆ヲ用ユル片ハ新聞用紙ノ如キ其質ノ粗ナル者或ハ駿河半紙ノ上等品ヲ善トス

四　筆ノ持様ハ筆ノ先ヨリ一寸計上ノ方ヲ拇指、食指、中指ノ三本ノ間ニ緩ク持チ腕ヲ据ヘテ此三指ノミ働シテ書クベシ

五　初学ノ間ハ余ガ編メル所ノ筆記法習字本ヲ用ユベシ

編者曰ク本編ハ専ラ初学者ノ為ニ綴字ノミヲ以テ人ノ言語ヲ速寫スルノ方法ヲ説キ示シタルモノナレバ極メテ簡易ニ従フト雖モ之ニ熟練スル片ハ如何ナル言語ニテモ速寫シ能ハザルモノナレ然

ヒ之ヲ以テ完全ナル速寫法トナスベカラス故ニ余不日畧語活用法ナル一書ヲ編シ十中八九ハ記号ヲ用ヰス略語ノミヲ活用シテ俗語漢語トモ片言隻語ヲ洩サス直寫スルノ妙法ヲ示サント欲ス学者乞フ其書ノ出ツルヲ待テ一讀シ以テ益々速寫法ノ簡便ニシテ効用ノ大ナルヿヲ知リ賜ハレンヿヲ

言語速寫法之沿革

言語速寫法トハ泰西専ラ行ハルヽ所ノ(フヲノグラフィー phonography)即チ傍聽筆記学ナリ其由來ヲ繹ヌルニ泰西ニ於テハ三ノ起原アリ其濫觴ハ遠ク數百年前羅馬ニ於テ(シセロ)ノ時(テロ及ヒエンニアス)ノ二氏始メテ標識ヲ用ヰテ說話ノ略記ヲ試ミタルニ起リ爾來此方法ニ憑リテ一千五百八十八年ニ於テ(ブライト)氏ガ言語略記法(テムオフアービトラリー)一千六百二年ニ於テ(ヂョンウヰル)氏ガ短記假字(シャトヘンドアルフアベット)初歩等ヲ著シタレヒ其方法ノ未タ完

全ナラザルニヤ更ニ世人ノ知ル処トナラザリキ一千六百八十二年ニ於テ(マツソン)氏右等ノ諸法ニ改良ヲ加エテ世ニ公ニセリト之ヲ筆記学起原ノ第一世紀トス其後一千七百五十一年ニ於テ(トーマス、ガアネー)氏ハ(マツソン)氏ノ法ヲ以テ有益ナル学術ナリトシ或ハ政府ニ建白シ或ハ氏ノ朋友親戚ト約シテ其擴張ヲ謀リシト一千七百六十七年ニ於テハ(バイロム)氏一千七百八十年ニ於テハ(マボア)氏各一ノ方法ヲ著シタリ仝年(ペアレー)氏ノ発起ニテ筆記法通信會ヲ創立シ互ニ之ガ研窮ヲ謀リ大ニ筆記学ノ効用ヲ社會ニ顕ハシタリト一千七百八十六年ニ於テ(テーラア)氏以上ノ諸法ニ改良ヲ加フ之ヲ(テーラア)氏法ト云フ此期ヲ筆記学起原ノ第二世紀トス其後一千八百二十三年ニ至リテ(ウキリヤム、ハーデンク)氏ハ(テーラア)氏法ノ擴張ヲ謀リタレ氏未タ一般ノ人士ニ感動ヲ與フルヿナク稀ニ学士輩ノ間ニ知ラルヽノミナリシ然ルニ一千八百三十八年(我仁孝天皇天保八年今ヲ距ルヿ四十九年前)英國ノ学士(アイザック、ピットマン)氏ガ発明シタ

ル筆記学ノ世ニ出ツルヤ一時ニ世人ノ讃賞ヲ得テ大ニ名聲ヲ博シタリト氏ガ著書ノ如キハ二十有八年間ニ無慮五十餘万部ヲ發賣セルヲ見テモ其方法ノ善良ナルヲ知ル二足レリ之ヲ筆記学起原ノ第三世紀トス爾來各國トモ大ニ筆記学ノ必用ヲ感シ之ガ攻究ヲ謀リシガ今ヤ獨逸佛蘭西亜米利加及其他ノ諸國至ル所トシテ筆記学ノ行ハレザル國ナシ就中亞米利加ヲ以テ最盛ナリトス

我國ニ於テハ源綱紀先生ヲ以テ筆記学ノ鼻祖トナス先生夙ニ我國ニ一定ノ筆記学ナキヲ憂ヘ今ヲ距ル一十五年前即チ明治五年ノ頃米國ノ学士(ロバアト、ジー、カアライル)氏ニ就テ米國、根元傍聽筆記学ノ示教ヲ受ケシヨリ以来此法ヲ以テ我國ノ言語ヲ筆記セントヲ企テラレタレ𪜈彼國ノ言語ノ發音文字ノ組織等我言語文字ノ順序ト大ニ異ナルヲ以テ彼法ヲ以テ直ニ我言語ヲ筆記スルノ用ニ供スル能ハス爾來日夕焦思苦慮セラルヽ茲ニ十餘年竟ニ英國ノ(ピットマン)氏及ヒ米國ノ(グラハム)氏等ノ諸

法ニ基キ茲ニ始メテ幾多ノ腦力ト夥多ノ財料ト費シ我語音ニ適スル簡單ニシテ明瞭ナル一種ノ記号ヲ以テ其言語ヲ筆記スルノ一大妙法ヲ發明セラレタリ即チ日本根元傍聽筆記学ナリ次テ明治十五年十月廿八日ヲ以テ日本傍聽筆記学講習會ヲ東京ニ設ケラレタリ是レ我國傍聽筆記学會ノ權輿ナリ同十六年三月會名ヲ日本傍聽筆記学會ト改ム即チ今ノ我東京本會ナリ此際業ヲ卒ユル者數十名アリ先生日夜之ガ改良ヲ計ラレシガ尋テ名詞ノ格、働詞ノ法等未タ泰西ノ法中ニダモ有ラザル一種ノ便法ヲ考出セラレ之ガ筆記学ニ関スルノ方法ヲ昨年二月來始メテ講述セラルヽニ至リタリ是即チ方今專ラ行ハルヽ所ノ改良新法ナリ是ヨリ先キ黒岩大、日置益、二氏ノ譯補シタル演説討論議事傍聽筆記新法ノ発刊アリ以来日二月ニ之カ隆盛ヲ来タシ著書雜誌等ノ刊行亦頗ル多シ就中若林珊藏氏ノ筆記ニ係ル牡丹燈籠塩原多助一代記、林茂淳氏ノ編著シタル速記術大要、早かき取りの志るべ等ハ関東ニ於テ九山平次郎氏ノこと

ばの寫真法、片桐和吉氏ノことばの寫真法獨稽古等ハ関西ニ於テ各筆記学中ノ錚々タル者ナリ、然シテ是等ノ諸氏ハ皆曩ニ業ヲ源先生ノ門下ニ受ケシ人ナリ然ルニ我國筆記学ノ行ハルル日甚タ淺キガ故ニ未タ洽ク世人ノ知ル所トナラズシテ益々旺盛ニ赴クヲ竒貨トナシ未タ筆記学ノ何物タルヲ知ラス僅ニ記号ヲ辨スルノミニシテ儼然門戸ヲ張リ世人ヲ眩惑スルモノナキニシモ非ラス源先生大ニ茲ニ嘆ク所アリ真正ノ筆記学ヲシテ全圏ニ擴張セン1ヲ欲セラレ乃チ東京本會ニ於テ専修員ヲ募集シ其卒業生ヲ派シテ支會ノ長タラシムル事トハナレリ於是昨年七月業ヲ卒ユル者ヲ以テ東京盛岡、鶴ケ岡、新潟、富山、前橋、千葉、浦和、大坂、西京、岡山等ニ派シテ日本根元傍聽筆記学ノ擴張ニ從事セシメラレタリ豈盛ナラスヤ如斯ニシテ止ザレバ此學ノ全國ニ瀰漫スル應ニ遠キニ非ラザルベシ筆記學沿革ノ大要ヲ述ベ以テ序ニ換ユト云爾

明治十九年三月

編者識

版權免許
刻成發兌
定價金壹五錢

明治十九年二月十七日
同　年五月十七日

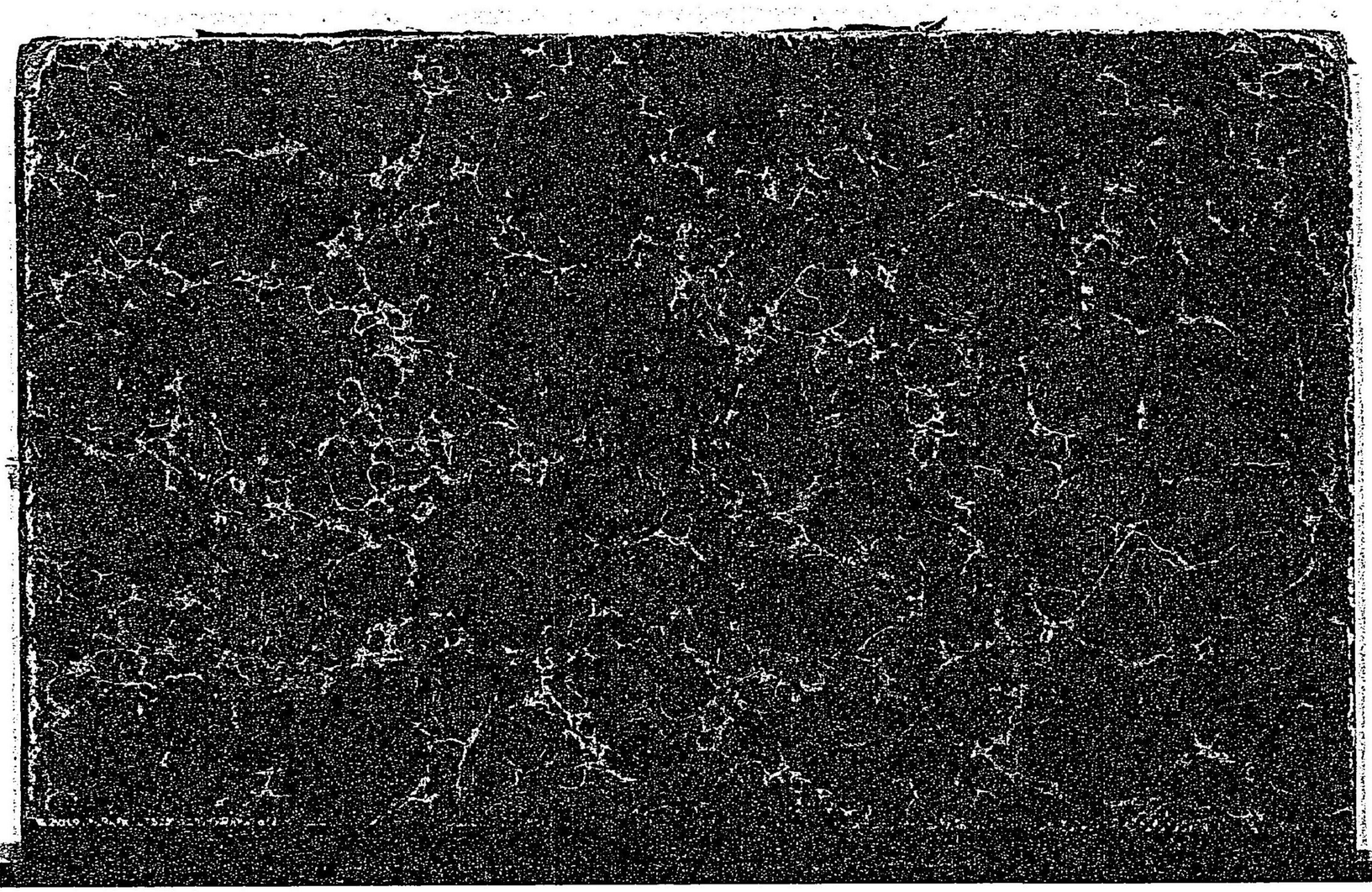
編輯人　大分縣平民　亀井晴吉
大分縣豐后国東郡當來浦八百四十二番地
當時京都府下京第十四組天王町竹若みち方寄留

出版人　京都府平民　杉本甚助
下京區第五組井慶右町十六番戸

發兌人　西京三條通御幸町角　大谷仁兵衛

仝　西京寺町通姉小路突當　清水幾之助

仝　西京寺町通押小路突當　山田安貞

仝　大阪東區北渡辺町四十四番地　寺井與三郎

仝　東京南傳馬町二丁目　辻本尚書堂支店